新真婦人

第六号（十月号）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

看護婦見習生募集

年齢十八歳以上
學力尋常小學卒業以上
品行方正ニシテ傳染病ヲ有セザル女子ニ限ル

院長診察 月、水、木、金、午前
入院診後應需
林、峰間、兩副長ハ目下當院ニ在勤

（電本）八八八八（病院用）
八九八（自宅用）

東洋内科醫院

東京神田駿河臺鈴木町二御茶水橋南

院長 醫學士 高田畊安

相州高座郡茅ヶ崎町海濱從停車場半里

電話ちがさき二番

南湖院

河野、高橋、兩副長ハ目下當院ニ在勤
院長診察土曜日午後。入院、診後應需

十月一日より

冬衣大賣出し

寄切見切反物陳列

東西大家 裾模樣圖案展覽會

一般の懸賞募集と異なり特に斯道大家に揮毫を乞ひたる者のみに候間一段の光彩を放居候

東京今川橋

松屋呉服店

電話本局一五〇〇〇番より

新眞婦人第六號

口繪（イサベラ（ホルマン・ハント筆）
　　　きのこの精（小川芋錢筆））

婦人と社會改善　西川文子

同情　柳子

ナポレオンの夫婦喧嘩

雨の田端より　日向きむ子

煤烟を讀む　中古の女

新しい女の犧牲　高安月郊

親の心づくし　川口露子

秋の夜話（小說）　小口みち子

靜江さんに　座古愛子

今後の婦人　茅原華山

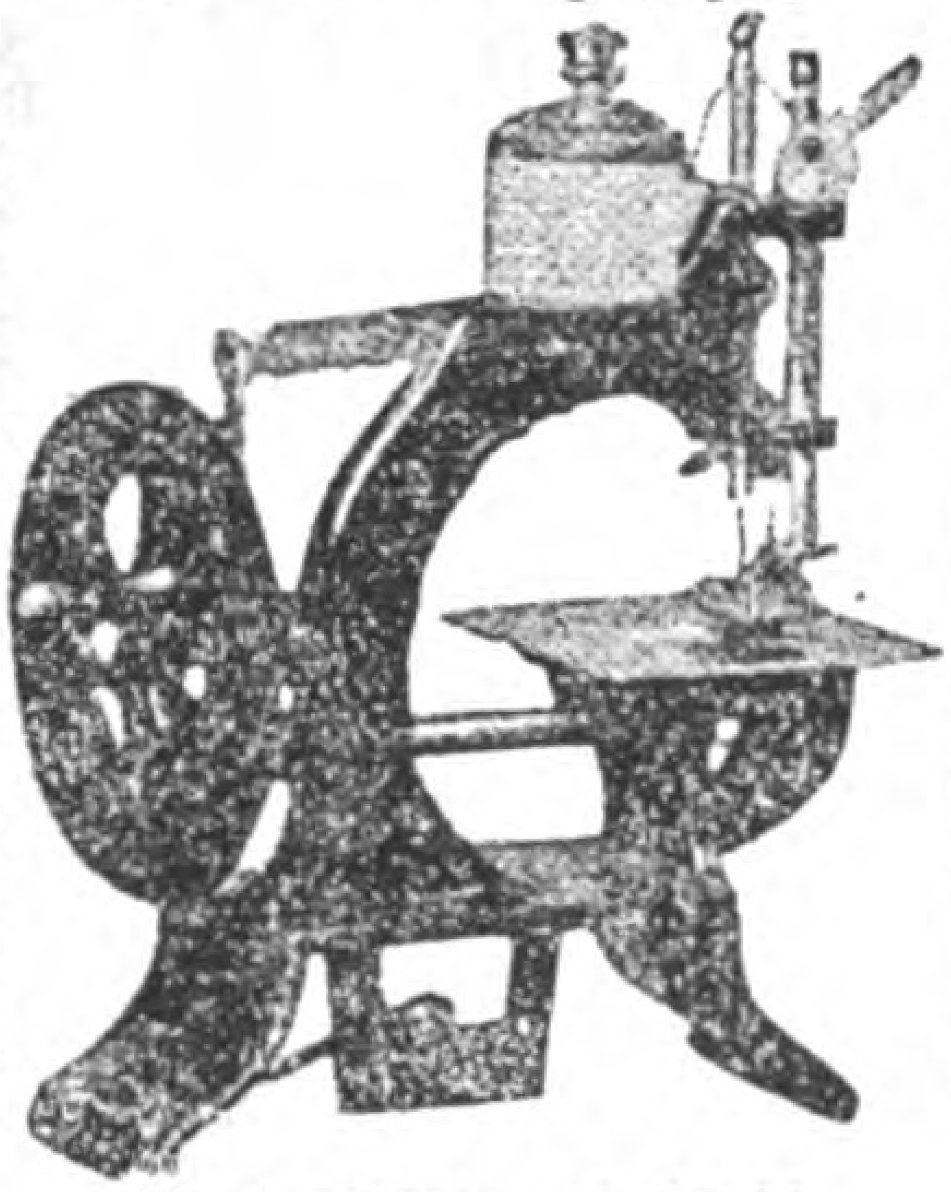
Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

（十月一日發行）目次

瀕死のをとめ　小口みち子
カシタンカ（飼犬の名）　瀬沼夏葉譯
私は君主です　桃代
婦人寄生論（二）　高野重三
赤ン坊展覧會　米國教育學博士 西山悊次
蓑蟲（小說）　島林あぐり
ラヂウムの話　ドクトル 渡邊鼎
流行
東西南北
新刊紹介
募集文藝（俳句——短歌）

● 姫ミシンは發賣以來非常の好評にて最初の製造六千臺は賣切れ一時注文を謝絕せしも　今や第二期製造一萬臺の內日に二百臺づゝは仕上り居れり此際申込まるゝを便利とす
● 姫ミシンは我國民にミシン使用の智識を進めん爲に考案されし優美簡單堅牢の小器械なり
● 家庭用諸學校用內職用は勿論ミシンを知らぬ人又御針の心得なき人に歡迎を受けつゝあり

姫ミシン



特價金二圓五十錢
糸針取付具一切共

送料荷造費內地二十錢、臺樺四十錢、鮮滿五十錢

製造元　東京淺草區南元町五六　片桐製作所

顧問　嚴谷小波、高島平三郎

發賣元　東京麴町區內幸町一の三　浪速商會
電話新橋二七〇九、振替東京二四三一三、

● 全國に四十六ヶ所の特約店あり便宜申込れたし

イサベラは其兄等に殺された戀人の死場所を森の中に發見した時その首をきりとり密に家に持ち歸つて口なし花の鉢に秘めた、あはれ彼女は星を忘れ月を忘れ太陽を忘れ、木の間の空もゆく水も樂しい秋のそよ風も忘れた。たゞ花鉢のかたはら去らず涙に土をうるほしてゐた。

ホルマン・ハント筆

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

おゝ憂愁よ　しばしこゝにあれ！
おゝ音樂よ　絶望のいぶきせよ！
おゝ反響よ　暗き島より來る反響よ
知られぬ冥府の忘川、我等の爲に歎息
せよ、——おゝ歎息！
悲しむ靈よくびあげてほゝゑめよ
あげよ汝がくびを。
青白き光を投げてサイプレス樹の繁
みのうちに大理石の汝が墓を銀青色
に彩れ。

キーツの詩「イサベラ」より

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

株式會社 東海銀行

日本橋呉服町 本店
日本橋堀江町 堀江町支店
本郷三丁目 本郷支店
赤坂田町 赤坂支店
本所龜澤町 本所支店
京橋尾張町 京橋支店
芝三田一丁目 三田支店
淺草並木町 淺草支店

好評忽ち再版

島村抱月譯

イブセン傑作

人形の家（ノラ）

婦人問題は

◎世界の近代劇中最も有名の作也……◎今や世界の最大社會問題の一にして此劇は近世婦人問題の焼點を代表せる藝術也……◎文藝協會公演に於てノラとマグダとは我新劇壇に空前の感動を與へたり此書其脚也……◎「新しき女」の問題はノラ及マグダの演劇より始まる……◎巻首に此作の藝術論及來歷五十頁の長文を加ふ

總布製壹冊
挿圖數葉入
正價九拾錢
郵税八錢

ショー傑作集

坪内逍遙博士譯
ウォーレン夫人の職業

坪内逍遙
市川又彥譯
武器と人

洋裝全一冊
挿圖數葉入
正價各六拾錢
郵税各四錢

發行所 東京牛込早稻田 振替東京一二一三番 早稻田大學出版部

（發賣所 東京日本橋本町 振替東京二四〇番 博文館）

十月一日ヨリ肩書ノ處へ移轉仕候

日本橋區元四日市町九、十番地（日本橋南詰）

合名會社 村井銀行

電話本局（特長 五、〇二〇 五、〇二一 五、〇二二 五、〇二三 五、〇二四）

同所

株式會社 村井貯蓄銀行

電話同前

従來ノ本店ハ大傳馬町支店（電話浪花六二）トシテ繼續仕候

◉近來粗惡なる類似品を製作販賣するもの有之候間よく〳〵共盛社に御注意あれ

最近新式

陶玉萬年筆
人造水晶筆

定價

特別箱入甲號	壹本 金貳拾錢	壹打 金貳圓
特別箱入乙號	壹本 金拾錢	壹打 金壹圓
普通	壹本 金五錢	壹打 金五拾錢

抑も此筆は理學的最新發明品にして學理の應用實地研究の結果製造したる便利と經濟とを兼備する新發明品なり

一此筆は和洋紙を問はず簿記又は細字圖引等には使用輕便自由自在にして從來使用し來る（ペン）先烏口等の遠く及ばざる所なり

一此筆は使用後洗容易なるが故に壹本の筆にて諸色インキ墨等を取換使用し得る便利を有す

一此筆は金屬質と異なり如何なる（インキ）墨を用ゆるとも筆先の腐蝕及磨滅する恐更になし以上の特色を有するが故に發賣以來非常の好評を博しつゝあり江湖の諸君是非御試用御用命賜はらん事を

發賣元

東京市淺草區駒形町四十三番地

合資會社 共盛社營業部

電話下谷六千十九番

振替口座東京七二四三番

◉取次販賣又は行商家の方は本社又は特約販賣店に申込あれ

◉本社へ照會は（往復はがき）に限る

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

是です是です此クラブ白粉が
東京で非常な人氣!
上つ方は皆クラブ白粉の薄化粧

クラブ煉白粉
クラブ水白粉
クラブ粉白粉
クラブはき白粉
クラブ打粉白粉

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

十月一日より

第廿六回新柄陳列會

江戸振髪飾及袋物陳列

懸賞募集ゴム寫眞陳列

寄せ切れ見切反物大賣出し

第四回美術及美術工藝品展覽會

付諸國名產品陳列

右何れも盛大に開會仕候間御誘合され御來觀被下樣奉願上候

東京駿河町

三越呉服店

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

新眞婦人　第六號

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

燈火中の顔

婦人と社會改善

西川文子

(一) 男の不品行な理由

太古に於ては一夫多妻であつた。而して多くの妻の中に等級と云ふものがなかつた、イ、エ太古の時代ばかしではない、豊臣時代に至るまで、實際妻妾の區別がなかつたと云はれて居る。然かるに女子は、婦德の敎へ、未だ世にあらざりし太古の時代から、一夫に聽順するのが、一般の風儀であつた樣に見へる。

其後妻妾の區別が出來てからも、男の感情次第で、直ぐ樣妻妾の位地が轉倒すると云ふ風であつたから、實際は妻妾の區別なかりし時と、之れと云ふ程の相違がなかつた。更に進みて一夫一婦と云ふことが人間の理想となつてから後も、或男子は切りに妻を取り代へ、又或男子は妻の外に、藝者とか娼妓とか云ふ類の女を近づけ、全く一夫一婦で滿足して居る男子は極めて尠ない、之れに反して、自然に一夫に聽順す

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

るの風ある女子は、婦德の教によりてイヤが上に、固いものにされて了つた。ソコで今日は、男と云へば不品行なもの、多妻的傾向のあるもの、女と云へば品行の正しいもの、一夫に聽順するの風あるものと云ふことになつて居る。さればこそ、偶々女の中に不品行なものがあると、非常に人の目に付き不品行な男は薩張り目に付かぬのである、イ、エ目に付かぬのではない、目に付いても目ざわりにならず、中には男の不品行は愛嬌の一種であるとさへ思ふ者あるに至つたのである

生物學者レスター・エフ・ワードの說によると、此の地球上に、最初生物の出來た時にはソレが皆な女性のみで、其の繁殖は分裂作用によつてのみ行はれたものだつたが、後ち生物の進化に變化あらしむるの必要から男性が造られた、斯く男性は生物としては主として生殖作用の爲めに造られた者であるから男性の生殖慾が何時までしても、女性より旺盛なのであらうとのことである。私は生物學者ぢやないから、生物學上より此の說の正否を判斷するの力は有りませぬが、併し前に述べた樣に歷史上の事實から想像して來て、私は此の說に深い根柢あることを信ぜざるを得ぬ。

別の方面からではあるが、永く人間の心理作用を研究したロバアト・ルイス・ステベンソンも亦た、婦人の男性なくして忍耐し得ることトテも男子の及び得る所でないと云ふことを、詳說して居るソウな。

斯く歷史上から觀察しても、生物學上から見ても、乃至は心理作用の上から見ても、生殖慾は、女性より男性にありて旺盛なのであるから、槪して云へば(殊種な男性は別として)男子は自働的には品行方正になり得ないものと云はざるを得ぬ。從來は女は生殖器が中心であるの何んぞと云つて居たが、實は反て男子こそ單に生殖作用の爲めに(生物學的に云へば)造られたのであるから、男子は自働的には品行方正になり得ないものと云はざるを得ぬ。果して然らば、他働的に女の力で、男子に品行方正を强ゆるより外に道がない。

支那の歷史を讀んで見ると、北齋にては百官好みて王侯將相の許より妻を迎へたので、夫人の權威强よ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

くして百官妾を蓄ふることがなかつたと書いてある。之れは日本の歴史にも多く例のあることで、今日でも自分より身分の高い家から妻を迎へて居る男は、大概不品行を爲して居らぬ。私共は又、地方へ旅行して女が盛んに金儲けをする所へ行くことがあるが、ソンナ土地の男は、自然に大抵な我儘は出來ぬことになつて居る。經濟上の關係はなくても、才學あり見識ある女を妻にして居る男は、又自然に品行方正にされて居る。此の例も頗ぶる多いのであるから、女が強く、偉く成り得た場合にのみ、男は品行方正になり得るものだとも云へる、女が弱く愚である限りは社會の風俗の直りようがないとも云へる。ソコで婦人の自覺を促すと云ふことが極めて大切になつて來るのである。

(二) 男子の品性の基礎

マホメットも、其の第一の妻、カディヂャには甚く感心敬服して、其の生存中は一夫一婦を嚴守して居たと云ふことである。彼が多妻主義の實行者となつたのは、カディヂャが死んで後のことである。私は此の話を承はりて、マホメットの品性の上に及せるカディヂャの感化力の如何に大なりしかを想像せずして止むことが出來ぬ。いゝえ、カディヂャの死はマホメットの品性に一大動搖を與へたのです、カディヂャは確かにマホメットの品性の基礎、少なくとも基礎の一部を爲して居たのです。ジョン・スチュワアト・ミルは經濟學者として有名ですが、殊に『婦人の服從』てふ名著の著者として、私共には最も忘れ難き人である。『婦人の服從』は從來發行された婦人に關する著書中、最も多く賣れた書物です。此のミルは其の二十五歳の時、テーラー夫人と云ふ二十三歳の婦人とフトしたことから友人になつた。ミルは此の婦人と二十年交際を續け、而して後婦人が未亡人となつたので結婚した。併し婦人はミルと結婚後僅かに七年にして此の世を去つた。ミルは其の著『自叙傳』の中に於て、二十年間は友人として、七年間は妻として、自分の爲めに盡して呉れた此の女の事を詳記し、最後に『自分の著述は半ば以上彼女の

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

力によりて成つたものである。自分は世間と彼女との間に立ちて筆記の勞を執りしものに過ぎない』と云つて居る。傳記家は又『ミルは其の夫人の死後、全く氣ぬけの體であつた、彼にとりては夫人は其の宗教であつた』と書いてある。私は此の話からしても男子の品性の基礎が婦人であると云ふことを、感ぜずには居られぬ。

グランドストンは千八百三十九年に結婚し、千八百九十八年に此の世を去つた、其の間六十年、夫人は彼をして内顧の憂なからしめしのみならず、彼が議院で演説する日には、夫人は必らず其の婦人傍聽席にありと云ふ風で、外に於ても密かに夫を助けた。さればグランドストンは何時も『妻は余の保護の天使である』と云つて、夫人に感謝して居たと云ふことである。グランドストン程の人物でも、若しも之れ程の婦人が其の陰に居なかつたら、ドウ變つて居たかも知れぬ。若しも夫人が、グランドストンの中年時代に、病死したとしたら彼の前半生と後半生とは、必らずや木に竹を接いだ樣なものであつたらうと考へる。

ヂスレリーは、其の三十五歳の時、自分よりは十五も年上な一未亡人と結婚したのであるが、ソレより三十年の間、兩人の關係は極めて圓滿なものであつた。彼女の死して後、彼が『彼女は三十年の間に、自分に一時間でも陰氣な感じを起さしめなかつた』と云ひしに見ても其の如何に幸福なりしかゞ分る。之れ程の夫人が陰に居なかつたら、ヂスレリーの品性もアレ程には行かなかつたであらう。

故ブース大將なども、夫人の力を借ること多かりし人にて、之れ程の夫人なかりせば、ブースはアレ丈けの仕事が出來なかつたに相違ない。

天文學者ハッシエルや、詩人ウォルヅオスは獨身で一生を送つた人であるが、彼等の陰にも亦偉大なる婦人の居たことを忘れてはならぬ。二人とも其の偉大なる妹の尊き犧牲の精神に慰められ、助けられて、其の尊い生涯を送り又其の偉大なる事業を爲し遂げ得たのである。セント・フランシスの樣な聖僧でも、矢張り婦

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

くして百官妾を蓄ふることがなかつたと書いてある。之れは日本の歴史にも多く例のあることで、今日でも自分より身分の高い家から妻を迎へて居る男は、大概不品行を爲して居らぬ。私共は又、地方へ旅行して女が盛んに金儲けをする所へ行くことがあるが、ソンナ土地の男は、自然に大抵な我儘は出來ぬことになつて居る。經濟上の關係はなくても、才學あり見識ある女を妻にして居る男は、又自然に品行方正にされて居る。此の例も頗ぶる多いのであるから、女が強く、偉く成り得た場合にのみ、男は品行方正になり得るものだとも云へる、女が弱く愚である限りは社會の風俗の直りようがないとも云へる。ソコで婦人の自覺を促すと云ふことが極めて大切になつて來るのである。

(二) 男子の品性の基礎

マホメットも、其の第一の妻、カディヂャには甚く感心敬服して、其の生存中は一夫一婦を嚴守して居たと云ふことである。彼が多妻主義の實行者となつたのは、カディヂャが死んで後のことである。私は此の話を承はりて、マホメットの品性の上に及せるカディヂャの感化力の如何に大なりしかを想像せずして止むことが出來ぬ。いゝえ、カディヂャの死はマホメットの品性に一大動搖を與へたのです、カディヂャは確かにマホメットの品性の基礎、少なくとも基礎の一部を爲して居たのです。ジョン・スチユワアト・ミルは經濟學者として有名ですが、殊に『婦人の服從』てふ名著の著者として、私共には最も忘れ難き人である。『婦人の服從』は從來發行された婦人に關する著書中、最も多く賣れた書物です。此のミルは其の二十五歳の時、テーラー夫人と云ふ二十三歳の婦人とフトしたことから友人になつた。ミルは此の婦人と二十年交際を續け、而して後婦人が未亡人となつたので結婚した。併し婦人はミルと結婚後僅かに七年にして此の世を去つた。ミルは其の著『自叙傳』の中に於て、二十年間は友人として、七年間は妻として、自分の爲めに盡して呉れた此の女の事を詳記し、最後に『自分の著述は半ば以上彼女の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

力によりて成つたものである。自分は世間と彼女との間に立ちて筆記の勞を執りしものに過ぎない』と云つて居る。傳記家は又『ミルは其の夫人の死後、全く氣ぬけの體であつた、彼にとりては夫人は其の宗教であつた』と書いてある。私は此の話からしても男子の品性の基礎が婦人であると云ふことを、感せずには居られぬ。

グランドストンは千八百三十九年に結婚し、千八百九十八年に此の世を去つた、其の間六十年、夫人は彼をして内顧の憂なからしめしのみならず、彼が議院で演說する日には、夫人は必らず其の婦人傍聽席にありと云ふ風で、外に於ても密かに夫を助けた。さればグランドストンは何時も『妻は余の保護の天使である』と云つて、夫人に感謝して居たと云ふことである。グランドストン程の人物でも、若しも之れ程の婦人が其の陰に居なかつたら、ドウ變つて居たかも知れぬ。若しも夫人が、グランドストンの中年時代に、病死したとしたら彼の前半生と後半生とは、必らずや木に竹を接いだ樣なものであつたらうと考へる。

ヂスレリーは、其の三十五歲の時、自分よりは十五も年上な一未亡人と結婚したのであるが、ソレより三十年の間、兩人の關係は極めて圓滿なものであつた。彼女の死して後、彼が『彼女は三十年の間に、自分に一時間でも陰氣な感じを起さしめなかつた』と云ひしに見ても其の如何に幸福なりしかゞ分る。之れ程の夫人が陰に居なかつたら、ヂスレリーの品性もアレ程には行かなかつたであらう。

故ブース大將なども、夫人の力を借ること多かりし人にて、之れ程の夫人なかりせば、ブースはアレ丈けの仕事が出來なかつたに相違ない。

天文學者ハッシェルや、詩人ウォルヅオスは獨身で一生を送つた人であるが、彼等の陰にも亦偉大なる婦人の居たことを忘れてはならぬ。二人とも其の偉大なる妹の尊き犧牲の精神に慰められ、助けられて、其の尊い生涯を送り又其の偉大なる事業を爲し遂げ得たのである。セント・フランシスの樣な聖僧でも、矢張り婦

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

人の助けを要したのである。若しもセント・クレアーと云ふ尼さんが居なかつたら、彼の生涯も、キット今日見るとは違つた色彩を呈して居たに相違ない。

カウ云ふ例はイクラでもあるが、一ち一ち列擧するにも及ぶまいから、コレ位にして置きますが、兎に角、男子の品性の基礎と婦人の間には重大な關係があると思ふ。私は此の事は確信して疑ひませぬ。で此の點からして、又婦人の自覺の如何に大切なるかを思はずして止むことが出來ぬ。

（三）婦人と社會改善

男子の品性改善には、婦人の力を借らねばならぬと云ふことは、既に之れを述べた。此の男子の品性を改善すると云ふことは、元より社會改善上第一に必要なことであるが、其の外にも社會改善上婦人の力を借らねばならぬことが多い。

昔は大抵な物は家庭で拵へたものであるが、機械の發明と共に、ソレがダン／＼工場で拵へらるゝこととなつた、從て家庭に於ける婦人の仕事がダン／＼減つて來た。電燈が安くなつてランプ掃除の必要もなくなり、瓦斯で煮炊をする樣になつて臺所の仕事も大變樂になつた。イ、エ、小供さへも母の膝の上よりは公園道路、幼稚園、學校、工場等に於て餘計に時間を費やすこととなり、而して公園、道路、幼稚園、學校、工場等は、今日の所では男子の支配下にあるのであるから、今や小供でも女の手よりは、男の手によりて多く育てられると云つてよいことになつて來た。斯くして間暇の多くある婦人が增へて來た。就中、官吏、辯護士、技師、新聞記者、政治家、會社員等の如き、夫は出勤して外で多忙を極めて居ても、妻君には別に之れと云ふ爲すべき仕事のない程の婦人さへ增へて來た。而かも此等の婦人は大抵多少の學問と見識とある婦人なのである。社會が此等の婦人の閑時間を利用せぬのは間違て居る。

ソレも社會の仕事の中に、此等の婦人方に御頼みすべき仕事がないのであつて見れば、仕方がないが、實

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

はドンナ仕事にも婦人の働かねばならぬ部分があるのではない乎。

例へば戰爭の如きにも、傷病兵の看護、軍人遺族の慰問の如き、是非とも婦人に行て貰はねばならぬ部分がある。裁判所の仕事の中にも婦人の部分があると見へ、米國では少年裁判所の判事の下役に婦人を使て、好成績を得て居る。衛生の事、食物取締の事等の係員には男子よりは女子が適當である。警察の事務の上にも婦人の部分ありと見へ、近頃女子を巡査に採用した國があると云ふことを耳にした。就中、教育の方面に於ては婦人の爲さねばならぬ部分が多い。近頃『明日の女』と云ふ書物を讀みました、中に

千八百六十七年に、シカゴ婦人倶樂部の一婦人がシカゴに幼稚園を拵へた、之れがシカゴに於ける幼稚園の元祖である。幼稚園は後ちには何れも男子の手で管理さゝることゝなつたが、最初は女子によりて拵へられたものである。夏期休暇中、小供を森林の中、若しくば海濱へ連れて行て、自然を研究さそうと云ふことに、氣の付いたのも婦人である。學校の建物を放課後利用することを思ひ付いたのも、婦人である。其他教育上大切なことで婦人の發案になるものが極めて多い。然かるに學務委員を撰ぶに當り、シカゴ市の如きは、二十一人中に婦人を一人しか入れてない。ソレも男子の委員が悉く責任を盡す人ならばまだよろしいが、男子の委員は揃ひも揃ふて、兼務の多い人で、疲れ切て居る人々だから、缺席が多く、偶々出席しても成る丈け早く切り上ぐる工夫ばかりするから甚い。婦人の中には學問、識見もあり而して間暇もありて、親切に學校の爲めに盡せる人が多いのに、何せ婦人を措きて、ソンナに疲れ切つた、神經衰弱の男子を委員に撰ばねばならぬのであらうか。

と書いてあつた。實に痛快な論である。日本に於ても小學兒童の學校成績に就て能く氣を付けるのは、父よりも母である。而して間暇の多いのも母である。されば母たる人々を學務委員に撰べば、キット小學校は大

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に改善さるゝことであらう。

斯く一方には能力もあり間暇もある婦人が多くあつて、他方には夫等の婦人の力を借らねばならぬ仕事が多いのである。然かるに茲に婦人に仕事をさすことを好まぬ感情がある『女は出しやばるものでない』と云つて女を抑へ、神經衰弱で死にかゝつて居ても、女の手へ仕事を渡すまいとする、男の感情がある。此の理由のない感情の爲めに、今や社會は其の改善せねばならぬ多くの事を、其の儘にして置きながら、空しく日を送りつゝあるのである。であるから私共は此の點に於ても飽まで戰ひ、婦人の爲さねばならぬ部分は、飽まで進んで爲さねばならぬと思ふ。

（四）結論

男子の品行、品性を直すにも婦人の力が入り、其の他の點から社會を改善するにも、婦人の力がなくては出來ぬことが多い。されば私は婦人の中に、此の事を自覺する人の、いよ〳〵多くなることを、心から希望せずして止むことが出來ませぬ。

▲同情

河内の國の或村のお婆さんの所へ、或日髭茫々と生した一人の老乞食がやつて來た。お婆さんは氣の毒に思ふて、マア髭でも剃つて上げましようと云ふて、乞食が恐縮して辭退するにも係はらず剃つてやつた。其後二三月して又其の乞食が來た、お婆さんは又伸びたれと云つて、又剃つてやつた、其の時に乞食は涙を流して、私は多年乞食をして居るがお婆さんの樣な親切な人を見たことがないと云ふたとのことである。

▲ナポレオンの夫婦喧嘩

皇后マリー・ルイサーは墺太利生れ丈けに、寒いのが好きで、餘り室内が暖かになつて來ると能く窓を明けた。所がナポレオンは寒さが大嫌であるので、其の度に小言を云つた、でナポレオンとマリー・ルイサーとの間に、コンナつまらぬとから夫婦喧嘩が能あつたと云ふとである。蓋世の英雄ナポレオンがコンナつまらぬことから能く夫婦喧嘩をしたと云ふ所に、無限の面白味がある。人間と云ふものは一體カウしたものなのである。夫婦は其の關係極めて密接な丈けソレ丈け、一寸でも夫婦の間に、趣味の相違、意見の衝突、感情の不一致が起ると、ソレが喧嘩の原因になる。されば夫婦は互に注意して、二人の足並が揃う樣にして行きたいものだと思ふ。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

雨の田端より

日向きむ子

文子樣――

雜誌お送り下さつてありがたうございます、すつかり拝見しました。高島米峰氏の「夫の不品行と妻の不品行」を讀んでは自らほゝゑまれ山路愛山氏の「質問に答ふ」では良人の肩がこりさうなちと恐ろしい賢妻を想像し、上司小劍氏の「負けたなあ」を見ては女が勝つた樣な負けた樣な少しはね釣瓶に同情をする樣な氣分になりました、内ケ崎氏のはあまり徹底してゐて――その理想を現實の一々に溶かしてゆきかたのむづかしさをつくゞゝと思ひました、而して小口みち子樣のお文に及んで私も手紙をさしあげやうかと筆とりあげました。

過日おはなしの「夫の不品行を苦にせる婦人へ」は私には何ですか書けなかつたのです、それは考へれば考へる程非常に大きい深い生命がけの問題だからなのです。而してまだ自分にもわからないで居る處が澤山にあるので沈默をまもつて居ました、けれどもまとまらなくても不徹底でも心に浮ぶヿを其まゝにかいててみませう。高島氏の云はれる通り全體不品行といふ字義の研究からはじめなくてはならないし、又其妻が苦にするといふその苦の源につきあたるまでみづから堀りかへし堀かへしゝてみる丈の自覺を先呼び起さなければならないと思ひます。假に「苦にせる婦人」の幾人かゞ私にそれを打明けたとすれば私は本當にどれ程涙があつても足らない程共に泣いてあげたい樣に思ひます、けれど少し禪味？を帶びて、或は謙遜を欠いで「あなた何故苦になさるの？」と聞いたら如何でせう、「あら！　あなたなら苦になさらない？」と聞き返す人もありませうし、「如何してつて、苦にしないではゐられないぢやありませんか」といふ人もありませうし、「これより以上不幸な家庭はないのですもの」と答へるかたもありませう、しかし何故苦になるのか、如何し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

不幸なのかそこが本當にわからなければそれから逃れる道といふのも矢張わからない譯になりませう。夫のよくない行が妻の身にとつて如何つらいのでせうか、たゞつらいといへば最早誰にでも察しる事が出來る、それ丈で充分わかる單純な事といへば、さうもいへませうが、内容をみつめて見れば實は非常に複雜で考へるほどわからなくなる底のものがあると思ふのです。その誰にでもつらい丈でわかるのは一般に情ある生物がもつてゐる本能といひますか人情といひますか極自然な幼稚といつては語弊があるかも知れませんがある共通な感覺に觸れる一部分なのかと思ふのです。あるひはその複雜を一つによせて包んだ姿がさうほんのりしたものになつたので實はそれが眞の全なるものなのかも知れませんけれど……そんな詮議は哲學者や心理學者にまかせてしまふとしても、私たちは幸とか不幸とか樂しみとか苦しみとかいふ事に就いて今少し突き詰めまで、頭で考へる必要があると思ひます。自分の爲にしてゐる苦勞と他人の爲にしてゐる苦勞と心のうちでハツキリとわけて見られる丈の餘裕と冷靜と公平と勇氣と愛とを持ちたいと思ひます。同じ苦にしてゐる婦人でも、滅びゆく夫の靈の爲に泣く妻もありませうし、たゞ美くしい青春の幻影がはかなく消えてゆく事を悲しみ歎く新婦もありませう。又たゞわけもない妬ましさにかられて憎さの百倍する樣なはしたない北の方もあるでせう。よくない行をするといふのは勿論する人が惡いのにはきまつてゐますが何故するのかといふ事を妻がもつと〳〵深く考へなければならないと思ひます。男と女が平等につくられたものとすれば男ばかりが意味もなくさう極端に精神的でなくなるといふ理由がないと思ふのです。言とか行とか外にあらはれる事は内にかくれてゐるものが形や音に姿をかへて出て來るのですから物質的に不足を感じて來るといふのは即精神的に空虛を感じてゐる證據といはれませう。二人で治めてゆく家庭といふものに對して、一方に不足を感じさせるといふことは如何しても他の一方の不完全な爲であるといはなければなりますまいその責任

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を思ふ爲に苦しいのならば、それは本當に眞面目な苦しみなのですから、きつと其人は死物ぐるひに切りひらいてつひには勝利を得るでせう。

或は自らさう意識しないでも自然にその責任を負ふ樣になつてゐるから苦しいのだといふ人もありませうさういへばキリスト教の愛の神は卽ねたみの神で嫉妬は愛の對象の完全をはかる爲のもの、人類にあたへられた賜の一つといふ樣なむづかしい論も起つて來る事になりますが、兎に角、早いはなしが男も女もお互に今少し自分といふものを公平に大膽に解剖して見て、同情をもつた眞面目な批評家の態度でかへりみる事にしたならば何とかかたがつきさうにも思はれます、夫の不品行を苦にせる婦人」を私は實際に幾人も知つてゐました、けれども其人にはみな苦の上かはをかすつてゐるとしか思はれませんでした、それはそのいふ事でわかります、曰く「それは男の働きですから何も少し位の事ならばだまつても居ますけれどこの分では家名に係ります」曰く「つきあひもありませうから出來る丈の處でやるのなら何ですけれど、人樣に不義理をして――もし一朝大病にでもかゝつて先へゆかれて御らんなさい殘る私はどうなるのでせう、生涯浮ぶ瀨もない借金の淵に沈んで……」曰く「何もうちのばかりでもないのですから妾の一人ぐらゐ置いたつてたてるものをたてゝおいてなら私だつて目をつぶつてゐます、けれども此頃はまるでひどいのですからね私たち家のものは儉約にしてゐるのに妾宅のかゝりはあなた、吳服屋のばかりでも何拾圓といふのですからね」曰く「私は最早ほと／＼愛想が盡きてゐるのですけれど今更離緣するなんて世間の手まへもありますし是から如何してゆくといふあてもなし、そんなこんなを思ひますとねつひ……」曰く「子供さへなければ……」この最後の一つをぬかしては、氣の毒とは思ひますけれど、その不品行な夫に對しても矢張氣の毒になりますから差引勘定あまり動かされもしない事になりますこんな事を考へるとノラが奇蹟を期待したのを思ひ出さずにはゐられません、大なる我の自覺でなくて小な

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る私心があるうちは「夫の不品行を云々する資格がない」といふ高島氏の言をそのまゝ用ひてさしつかへないと思ひます。卑しい私の心があるから甘い言をいはれて赦しがたい事を赦したり、赤坊かなんぞの樣にいゝものを買つてもらつて正しい主張をまげてしまつたりする樣な意氣地ない、はづかしい事になるのではありませんか、女の多くがこんな不甲斐ない泥沼からあがる事が出來ないでゐるから男を救ふといふ樣な世にも氣高い嚴な役目を神はまだ安んじて誰にもかれにもいひつけては下さらないのでせう。私は今或る人と或る人との問答をこゝへそのまゝかいて見ますこれは小說ではありません。

「その女は良人が別れるといへば死んでしまふと云ふのださうです」

「本當にでせうか」

「狂言かも知れないわ」

「もしあなたなら如何して？」

「私？　良人が別れるといへば？　私　別れるわ」

「死なゝいの？」

「死なゝいわ、そんな愛のない人の爲に」

「あなた御主人を如何思つていらつしやるの？」

「如何つて？」

「愛していらつしやるの本當に？」

「私を愛して呉れた時は私も愛してゐましたけれど今は憎らしいばかり」

「憎らしいつてどう？」

「だつて憎いぢやありませんか賣りもの買ひもの、商賣人なら兎に角、素人のそんな女に關係つけて、尊敬する氣になどとてもなれやしない、此ごろは顏まで卑しく見えて本當に愛など私にはなくなつてしまつたの」

「本當に？」

「本當ですとも愛の爲の嫉妬かなんどなら、あなたにだつてこんなに打明けやしない」

「そんなら何故此家にゐらつしやるの？」

「でも世間の口もうるさいし、みす／＼その女に退かせられる事になるのは口惜しいのですもの」

「だつて、そんな意義のない生命のない生活をつゞけてゆくのは苦痛ぢやありませんか」

「苦痛だつて仕方ないわ、かうなつたら」

「けれどね、その人が本當に死ぬほど愛してゐるとし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て、あなたはたゞ世間の口と意地張丈でとゞまつて居るとすればそれは、あなたの方が退かなきやならないかも知れない」

「まあ！　だつて私は結婚してゐるのですもの戸籍上妻なんぢやありませんか」

「……それで御主人は何と云つていらつしやるの？」

「お前にも氣の毒だけれど男として人を見殺しにも出來ないから苦しいつて此ごろは煩悶してゐる樣ですわ、自分が惡いのですもの苦しいたつて仕方ない」

本當に仕方ないでせうか、仕方はいくらもある樣に思はれて仕方ないのです。惡い事を當然の事の樣に思ふ程良心のしびれてゐる男も少なくはないのに幾分かでも苦しんでゐる處まで來てゐるなら仕方はいくらもありさうなものと思ひます。何といつても愛といふ偉大な力をかりて來なくては一つとして眞のまとまりはつかないのだと思ひます、同じ夫の爲に苦しむにしても自分即妻として立つてゐるもの丶生命の價値と責任と使命の爲に苦しむといふ處まで行かないうちはとても夫の品行をあらためさせる力など出て來るとは思へません。要するに自分の愛の純不純眞僞を瑠璃の鏡に照して自らスッカリ見定めてからさて忍耐との相談にかゝる可だと思ひます。私の知つた婦人の夫に、自分は他の女とよくない交際を續けながら、其爲にやけになりはしないかと妻の心を疑つて、極端な干渉をしたり、自由を束縛したりして、不安と煩悶に日を送つてゐる人があります。さりとて河内通ひの業平ほどの情もないと見えて透垣のかげに一夜をあかす程積極的な愛も妬も持つてはゐないし、妻君の方もまた、馬鹿らしいとか無理だとか不平たら／＼ではゐますが、それだからどうしやうといふ程の氣力もなければ、沖つ白浪たつた山と深夜に歌うて詠める樣な絶對の愛もないのですから、はたで見てゐてもじれつたい樣な心もちがします。どんな罪でも無情でも夫の爲に夫を愛する心からすべて赦してふみつけられてもけられてもじつとこらへてつひに悔ひ改めさせるまでふみとゞまつてやるといふのならばそれは本當に理想の女性その忍耐と勇

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

氣と信仰と無私の愛のまへに私たちは何といふ言もなくひれふさなければならないと思ひますが、そこまでの愛も力もないならば先みづから省て始末をつけなければならないと思ひます。あるひは深くかへりみたら夫をそれまでひきおろしたことを自分がお詫びしなければならないかも知れません、徹底的に我を殺してすべてを生す事が出來ないならば、せめては自然に正直に生きて、怒るのもよいでせう、泣くのもよいでせうごてつくのもよいでせう、機嫌なほすのもよいでせう、それが自然に何とかなつてゆくのでせう。人間の敵はことに女の敵はなまぬるい不自然(妙な言ですが)ですなりきらぬ芝居をする事です。小口みち子様の御手紙の文のうちに『藝妓や遊女が限つて持つてゐる一つの魔力』とあつたのも、其うちには無邪氣な自然といふ事が大に含まれてゐるのではないでせうか、眞の生きた表情が無意識のうちに最よくあらはれる樣に。そこに人間の靈魂の價値が定られるのではないでせうか、兎にも角にも私たちがこの世の何にも動かされず、しかもすべてによく同化してかたまらずこぢれずに、ゆつたりと絶對の愛の衣に何ものをもつゝんでしまふ事が理想論でなく實際に出來る時が來たならばすべての事が目がさめた樣にハッキリわかつてうるほひのある樂しさのうちに生きる事が出來るのでせう。まとまらぬ事を長くかきました失禮。

▲煤烟(森田草平氏著)　前日朝日の紙上に連載された當時讀んで、要吉と云ふ男に一種の嫌惡の情をもつてジゴマ以上に私は此男を憎んだ、而も其當時の私にはお恥かしい次第だが、要吉丼に朋子も共に其一部分だけだも理解することが出來なかつた、死の勝利の譯文が出て忙しい中からやつと讀了した私は今亦煤煙の三卷をよんで初めてうなづくことが多かつた。えにしだの花を地上にまかせて其上をふんで戀人をたづねる華報者のイッポリタよりも、カシミヤの袴をはいた日本の朋子の方が遙かにえらい、遺傳も手傳つて居るし到底上品な男にはなれさうもない、ザオルジオは日本の要吉とは比較にならぬ程凡に通じて大きいとおもつた、此の勝利の背景が堂々たる物であつて煤煙のそれは鹽原の天地程に狹い。紅葉全集が賣れなくつてもよい、露伴先生のお作に接することが出來なくつても辛抱は出來る、森田草平さんの前途の御多幸を祈つて置きます。(中古の女)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

新しい女の犠牲

高安月郊

額を掩ふ濃い髪、稍迫つた眉、二重瞼のきつぱりとした目、彫刻の様な鼻、何か云ひ相にして口元で止めた様な口、短かい、顎で細くなつた顔、稍廣い肩、一見子供の様な、中性的の風采、誠に昔の女に無い新しい女の表情、それはマリイ、ウヲルストーン、クラフトである。彼は千七百五十九年、即ち革命の機運に動かされて平民の情を歌うたスコットランドのバアンス、自由の詩人、ドイツのシルレルと同じ年、アイルランドの血統を引いた貿易商の子の長女に生まれた。五歳迄はエッピングの森の近くに育つたが、父は諸方を流轉して資産も段々失ふにつけ、粗暴になり、屢々妻を虐待するので、マリイは幾度か兩親の間に入つて其身を以つて母を掩うた事もある、しかし其母も嚴しい壓制家で、事毎に彼に當つた。これは彼の心に先づ舊家庭の不満を感じさせたのである。十六の時ロンドンでフワンニイ、ブラッドといふ同じ年の娘と識り、忽ち深い同情を感じた。殊にフワンニイの父もマリイのと同様懶惰者であつたから彼は藝術に依つて一家をさゝへ様として、修養もマリイより進んでゐた、マリイは其手紙と自分のと比較して、自分の敎育の缺乏を耻ぢ、それから熱心に勉強して、行々は家庭敎師にならうと思うた。十九の時バッスへ行つて或豪商の後家の家へ入り、そこに二年ばかり月日を送つたが、他人の家も亦不愉快なものと感じたのである。しかし實家も母が死んで解散したから、マリイはそれから諸方を轉々する中、妹が結婚したが始から其夫と不和で、毎日の様に喧嘩をする、其實況は後の小説の種になつたが、實際では長く堪へられず、一時其危篤の病になつたのを看

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

護して遂に其家から脱走させた、これで亦當時通例の結婚の弊を痛切に感じたのである。

二十四の時フワンニイとアイリントンで學校を起した、そこへまた其妹を迎へて共に住んだ。段々好況なので稍大きな家へ移つたが生徒は其割に殖ゑなかつたから、また困つた。

此間に時の文學の老將、チョンソンに逢つた。彼は親切に待遇して再會を期したが其後間も無く死んだので果さなかつた。

其内にフワンニイは過勞の爲に病になつた彼を愛する男があつてポルトガルへ行つたら健康を復すると勸めたので承諾して結婚したが、愈惡くなり、マリイが見舞に行つた頃は死ぬ時であつた。彼は一方丈の愛も自然の暖味も女の命を取止めぬのを感じたのである。學校の負債は愈々かさんだ、しかし敎育の實驗から時の敎育法の缺點を認めて『娘の敎育に付いての考』といふ小冊子を公にした。それで十ギニイを受取つたのが筆でえた報酬の始であつたが皆友の親に與へた。

二十八アイルランドへ行つてミカエルスタウンの貴族の家庭敎師になつた、一年四十ポンドの報酬で。しかし主婦は無趣味で、唯快樂を求める事を仕事にして、殊に犬を無闇に寵愛したので、マリイは死ぬ程苦しんだ、子供も始は手に合はなかつたが、直になついて、それが爲にまた其母に冷になつて來たから、一年ばかりで止められた、彼はまた上流の家庭のつまらぬのを知つたのである。其間に「マリイ」といふ小説を脱稿して、それを亡友フワンニイの記念にした。

三十には家庭敎師を止めて、文學に全力を注がうと決した。餘り見込も無かつたが、進歩した思想家の著書を出してゐた發行人を知つて、其助をえた、其家でまた時の名士にも逢た中に近代思想の先頭、象徴的詩人で、又畫人のブレークにも逢た。

それからロンドンに住んで、かの小説に子供の讀物『現實の生活から新奇の話』を公にした、これはブレークが畫を描いたから、今では殊に珍重される。それにフランス、ドイツ、ホルランドの書からも飜譯して、

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

就中サルッマンの道德原理にはまたブレークが書を入れた。

其間に時の雄辯な政事家バルクに宛て丶書簡體で、『男子の權利の要求』を書いた、彼はいつしか時の思潮にふれたのである、次いで『女子の權利の要求』を書いた、これこそ太古以來男子の附屬物になつてゐた女が始めて覺醒した第一の聲である。彼は先づ女子ばかりか人間全體に、もつと進步した自由の國民敎育を施して男女同樣の益を得る樣に說いた。次で女子を男子の玩弄物にする風習を憤慨し、兩性を同等の友誼の上に置く樣に望んだ。此書は直に一代を驚かした、殊に佛蘭西で飜譯されたのはまた同時に同國を震はした革命の影響でもあらう。マリイも其大波瀾に感動して、自身で海を渡つた時は丁度ルヰ十六世が法庭に出る二日前であつた。彼は王が其窓の前を國民軍に圍まれて通るのを見た、彼は國民の威嚴に服したが、また王が思うたより嚴格に死に就くのを見て泣いた。

彼の文名は『女の肩には重量である』と書いたが、パリの有力な人々に會見を容易にした。暫く郊外の植木屋の一家に寓居して、佛國革命に關する歷史的道德的見解をまとめ主人の好意の美はしい葡萄を味うては夕方になると危險なと止められても恐れず、あたりの森を徘徊した。しかし政事上より其情の上に大波瀾を起したのはギルバアト、イムレイに逢つた事である、時に三十四、男は三十八であつた。始は寧ろ嫌であつたが一轉して友情になり、遂に愛になつた。イムレイはニユウ、ゼルシイの生れで其時アメリカの軍隊の一士官であつたが「移住民」といふ小說も書いた。マリイは初三月程は極秘密にした、彼には別に財產も無かつたマリイも亦負債を持つてゐた。されば公の結婚をしなかつたのは其累を及ぼさせまい爲でもあつたといふ。しかも互の關係を「最も犯すべからざる性質」と自認した。所がフランスの政府は平和になるまでは居留の英國人を禁錮すると布告したから、止むをえずイムレイの名を取つて、アメリカ公使の保證を得、從つてパリで彼と同居した、彼は先づ其著書で述べた理想の糸

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

口に取りついたのである。されば其目には新しい光がついた、其頬には新しい色が出た、其聲は陽氣になつた、其笑は總ての人の心を獲た、智が多い丈情も深い性質が始めて花になつたのである。

しかし其花は仇花であつた。ギルバアートは其前後にも外へ心を向て同居後間も無くハアバアへ行つた。マリイは血の町に待つた、ロベスピエルの殘酷が日に日に募るのに尙歸らぬ人を待詫びて其地へ行つたが、其所で女の子を生んだ。彼はそれに舊友の記念としてフランセスと名けた。

一年立たぬ中、ギルバアトはロンドンへ立ち、マリイはパリへ戻つた。しかし男は直行くと約束しながら來ぬのである、マリイは堪兼ねて自分から行つて見ると彼は既に若い女優と同棲してゐるのである。マリイは自殺し樣とした、しかしやう／＼思止つて北歐へ旅行し變つた自然に氣を取直した。「スウエデン、ノルウエイよりの書簡集」は其結果である。

しかし全く恢復は出來ず、尙怏々とイギリスへ歸つたが男は途中に迎へると云ひながら復違へて、更に外の女に溺れてゐる。マリイは愈絕望して、水に入らうとした。先づバッタアシイ橋へ行くと、人通が多い、更にブットネイへ行くと、雨も降り出す、三十分ばかり橋を往來してゐる中には着物は濡れて身を通すのである。彼は遂に身を投げた。

しかし辛うじて救はれた。其前後の書簡を見ると、新しい女も永久の情には永久に惱んで、しかも唯情の女より、理性が多い丈尙自ら苦しむのである、彼は人には其理由も洩らさず、男からも物質上の補助を謝絕して、復筆を執り自活して其子も養うた、復文學の界へ入つた中、ウキリヤム、ゴトウキンと識つた、彼は三、年長で、時の最も進歩した思想を抱き『政事上の正義』といふ論文、『カレブ、ウヰリヤムス』といふ小説を出してゐた。殘る命は生きながらの死とまで思ひつめた心も段々暖になつて五年目頃には友情は愛に解けた。しかし、同じ家に住むのは幸福を破壞するといふゴドウキンの持論から二十軒ばかり隔てた一室を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

借りて、そこから往來した。朝飯は共にせず、晩餐までは逢ひもせず、時に共に散歩する位、其代り毎日短い手紙で互に通信した。ゴドウヰンから『貴女と一所に食事をする名譽をもちたいのです、如何ですか』なぞと書いて來ると、マリイは『フワンニイは貴君と食事をするのを喜んでゐます、しかし貴君先づ召上つて下さいお菓子の時呼びませう餘り遲くならぬ樣要求します』なぞと答へる。

二人はかういふ風に暮らす内にマリイが母になるので其爲に遂に三十八の年の春寺へ行つて式を擧げた、しかしゴドウヰンは其事を日記に書きもせず人に通知もしなかつたが、其崇拜者の二三の夫人は洩れ聞いて驚いて涙を流した。彼等は二人の眞意を解しなかつたのである、まして世はマリイを罵つて『哲學蛇』なぞと仇名つけた。

其頃のマリイの姿を詩人サウセイが書いて『茲で見る獅子の中マリイの姿が最も好い、唯一の缺點は人より優れてゐるといふ表情、それも傲慢ではなく冷笑でもないが、矢張不愉快である、目は輕い鳶色で、最深い意味を表はしてゐる。』

其中に女の子が出來た、マリイと名づけたが母はその生立も見ず、其後二三月で床に就いた、一週間ばかりで餘りの苦しさに鎭痛劑を飲むと『私は天に居ます』といふ。

しかしゴドウヰンは天を信じなかつた。

『いくらか樂になつたといふんですね』

彼等は遂に宗教觀を共にしなかつたのである。マリイは平和に死んだ。千七百九十七年。

次の年ゴドウヰンは其遺稿、四卷と其傳を公にした。其後幾年、其墓の側で昔よりも、其娘と詩人セレイが神祕の約を結んだとは。

セレイがゴドウヰンと交際し出したのは娘のマリイ十四の頃であつた、其後三四年、地に落ちた天人の樣な詩人に對して、彼と同母の姉、即先に母のマリイとイムレイとの間に出來たフワンニイも同じ思を抱いた、しかしセレイはマリイを撰んで、親に習うて自由に家を出たが、自分の事を忘れた樣に父は怒つた、父よりもフワンニイは跡を追うて出て二人が途中から送つたゼネワの時計を身に添へ、長い鳶色の髮に顏を隱し、スワンシイの宿屋で毒を仰いで死んだ。

母の運命は吉凶分れて其二人の子に遺傳したのである。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

親の心づくし

(一) 牧田翁の談

私は先日、本郷駒込で有名な牧田翁を訪問致しました、其の節翁の申さるゝには私がそれ位働いたのだから、自然妻の働いた事はもとよりで、妻は勇氣がありヘコたれぬ事は婦人としては先づ以つて聞かないものでした、隨分米の一升買などもさせられたものです。私も働けば自然着物もやぶれるからせッせとついで着せたもので、妻もソレに應じたものを着て居たのです。私はこれは子孫の爲めに是非殘しておきたいと思つて、私が着て働いてをつた着物を洗つて殘しておいたのです。

と云つて桐の箱に納められた紺飛白の單衣を見せられました。ソレは〳〵叮嚀につぎを當て、よくもこんなにと思ふ位つぎがしてあり、而かもはげ白らけて、飛白が見分けられぬ位にすれ破れてゐるのでした。私はこれを見せられて、つく〳〵自分の父親を思はされました。もとより自分の父は牧田翁の如き大成功家ではありませぬが、つゝまやかに骨身を惜します、若い時に働かれたのは全く同様です我儘な自分は全く親の恩、親の苦心と云ふ事などは何とも思はないで浮か〳〵と過ごして居たのでしたが、人の親のお話を伺つて、つく〳〵自分の父を偲びました。そしてその好紀念たる着物を包んである袱紗は縮緬の結構なものですが、之れにも一條の物語りがありますとて、翁は相場師で時々自分の世話した男が、一時大變都合よくいつた時に御禮に持つて來たものです、之れを貰つた時に、私は君等は遊んで居て儲けるのだが、自分は働いて儲けるのだと云つたが、其の後其の相場師は破産して狂人になつて死んで了つた。私は相場などをしてはならぬとの敎の爲めに之れも殘してあるのですと談られました。面白い對照ではありませんか(露子)。

(二) 婦人の虚榮

大久保府知事が現代の時世相に眉を顰めて富豪の祖先の遺物を敎博に陳列した夫は贅澤な珍什でなく、何れも活る百年の敎訓となるもの計り、住友の祖先か別子開掘當時に用ゐた粗末な藁の座蒲團、石崎澤之鶴が蓆包の繩綯な我手でしたと云ふ藁打の横槌、鴻池の東海道徒歩旅行中に猪を斬つた刀、福田六兵衛の初代が小店商内に夜を徹した菅笠など、其數殆ど三百もあつて、儉素な氣風が思ひ遣られ、見るから床しくも床しう感ぜられた、左ろに其末葉たる今日の富豪や成金の一門が、あらん限りの贅澤に華美を盡した虚榮を誇る苦が〳〵しさ淺間しくも情ない。

一寸こゝろみに婦人達のダイヤの指輪を瞥見すると、鴻池善右衛門氏の路子夫人がゴ自慢の秘藏品、代價は七千兩とある、外山修造翁の嗣子捨三クンの夫人春子は、束髪の簪に一千六百兩、左右の指に燦として閃くのが四千兩と三千兩、第三銀行の小川爲次郎翁のむら子夫人が二千五百兩と、千五百兩、増田自動車の信一夫人は三千五百兩、例の吉崎女權夫人李枝子が千二百兩と云た風に、夫は〳〵大したものである、一事が萬事で、今の紳士の豪華と云ふものは、迚も想像の及ばん位だ、ツマラヌ虚榮に心ある人の眉を顰めさすよりも、ヨリ高尙な趣味を有つて貰いたいものである。

(大阪日々新聞より轉載)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

秋の夜話

正木の家では妻の由嘉子が此頃何處からか一人のお婆さんを引つ張つて來て十日も廿日も自分の家に泊めて置く。

電車で送り返したと思ふと又四五日すると迎へに行つて連れて來る。

「此お方」はと人から聞れると、

「これはそれこそ本當の偉らい御婦人でありました、今でこそたゝの口八釜しいお婆さんになつて終ひましたが、私は此方の昔が好きであります故かうして交際を致して居ります」と云ふ。

正木の家は若い夫婦と女中との三人暮しで、からりと風通りのよい吹きぬきの、うす暗い隅や灰色の影等は見やうと云つてもないと云ふやうな家であつた。

ニッケル蓋で矢鱈と光つたハイカラな手道具やら化粧戸棚やらが一方にあるかと思へば、イブシのかゝつたやうな變にひねつた置物が中床の上に勿體らしく飾られて在る。

生卵を三つ潰して由嘉子が髪を洗ふと、一本一圓四五十錢の舶來のカスメチックを主人の金之助が買つて來てテカ〳〵と頭の毛を光らせて氣取つた顔をして澄して居る。

そんなこんなを見て居つては此お婆さんは決して默つては居ないのである。

まん圓い目を更に丸くして、まるで自分の孫の不埒を叱るやうに「勿體ない我身の程を知らない者には屹度天

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

罰が當ります、それ位ひの事の分らないやうな人達ではないのだが」等とツケ〲と勝手な事を云ふ。
「イヤに八釜しい婆樣だなあ」と云つて苦笑ひをして「オイ〲いゝ加減に送つて行つて又迎へに行けばいゝではないか」と金之助がたまらないと云つたやうな顔をする、由嘉子は「いくら云つたつて別に痛い譯ではないのですから、云ひたい事は勝手に云はして上たつていゝではありませんか、自分の家では餘計な人のやうに扱はれて居るのですもの、他人の私達の家で大きくなつて威張つて居るなんて可愛いゝ人じやありませんか」等と云ふ。
ふたりの問答が半分は聞えるらしく、人の上とも我の事とも一寸見當の付きかねるやうな顔をして、更る〲に二人の顔を見比べて居た。

今日は土えうの晩である、金之助の從弟の大學生と其友人と、由嘉子の從妹とそれから姪とが學校の寄宿舍から遊びに來て、こゝの家で落ち逢つて、それは賑やかな晩餐をすまして暫らく經つと、由嘉子の田舍から送つて寄こした新栗が澤山湯出られて持ち出されて來た。
チャブ臺を二つ並合して、栗を盆の上に三つに分けて山のやうに盛りあげ目笊を其間の手頃な所に置いて、名々の前に光つたナイフ、錆びついたナイフ、全然用を足しさうもない不具のナイフに、出刃庖丁から菜切庖丁迄が徵發に逢つて、これから秋の夜話が初じまる。
「ね姉さんさつきから大分問題の中心點となつて居るあのお婆さんと對姉さんに付いての解決を是非一つ願ひたい物ですね」
とは金之助の從弟の大學生の發議で、それがいゝ謹聽々々なんて其友人だと云ふのが云ふ。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「それはね私はいくらでもお話しますがね、此お婆さんの逸事をお話しすればする程、ね貴方々男の方の箔が剝げるのがお氣の毒でホホ、、、まあそりやいゝでせう、本當にそれは偉らかつた人なんですの」

とお婆さんの顏の方へ目をやつて少しく聲を大きくして、

「ねお婆さんこゝいらの子供達ちがね、私にお婆さんの昔えらかつたお話しをして聞せて呉れつて仕やうがありませんから、少し計り聞してやつてもいゝでせうね、構はないでせう」と云ふとお婆さんはニコリと笑つて默つつて、頷いて見せた、お婆さんは一つ栗を摘んでは見たがナイフが自由に遣ひ切れぬ。隣りに席を占めた由嘉子の姪がお婆さんのために栗をむいてやる。

由嘉子はやがてボツ〳〵と話し出した。

「此お婆さんはずつと昔の今から五十年計り以前の本當の新らしいえらい女でありました。嫁に行きましてから自分の御亭主になりました人が餘りに上人間であり過ぎたがために、自分が普通の女のやうな依賴心を持つて居つては小供の將來の爲めにも、又此家のためにも宜しくないと云ふ事を、只今の言葉で申しますとつまり自覺をしたのでした。

それで其當時の事でありました故、さる女髮結ひに賴み込んで一年の年期を入れて梳手になり、それこそ夜の目も寢ない程にして兎も角も一人前の髮結になりました。

小供も十人以上生みましたが只今生殘つて居るのはたつた五人だけで、それも女髮結の息子や娘には似合ない、相當の敎育も施して御座います……、女は皆それ〴〵可なりの處へ緣付けて御座います。

お婆さんは母親となつても決して無能の母親にはなりませんでした、自分の持つ亭主の人柄を見破るだけの目は親が横から手傳つてあげてやる〳〵と云ひ續けて、準自由結婚と申したやうなことをどの娘にもさせて來たの

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

でしたが、數の多い中には失敗もありました、どうしてもこれでは二人が不幸であると見極めをつけて終ひますと、自分がドン〳〵と出かけて行つて娘を奇麗に引き取りました。

近所の小料理屋へ行きまして、美しく別れの盃を取りかはさせて「生憎と自分の娘との間が面白く行かないので氣の毒でならぬ故、自分の娘よりもずつとお前に適當した女房を私も精々探してやる」と云つて其娘の先夫のために新らしい女房を推薦してやつて今でも親子のやうにして往來して居るやうなのも有るのです。

今でも八丁堀で女髮結のお蝶といつて聞いて御覧なさい相當の年輩の人ならば大抵は承知して居りますから。

今此お婆さんは總領息子の世話をうけて居りますが、生憎な物でして數の多い子供の中で此總領息子が一番出來が面白くない、所へ其連合ひと云ふのが千束町の白首上りだとかで、お婆さんを大切に扱ふ事を致しません。

それを見兼ねて銀座の横尾の叔母様が、御自分の家へ引取つて當分お世話をなさつた事もありまして、叔母様の家で私は此お婆さんを知り合ふことになつたのでした。

私は横尾の叔母様には學生時代から大層、いろ〳〵とお世話になりまして、それに私の田舍の家や田舍の親戚の樣に、男が皆大抵品行方正で、女がみんな貞淑で柔順で何のいさくさもなく風波も立たないのが、人間の家と云ふ物であり又人の一生だと計りに思つて居りましたのが、どうしてその樣な單純な物では決してないと云ふ事を、横尾の叔母様の生活の狀態から知ることが出來まして、つく〴〵と私は考へ込んだ事も御座いました。

横尾の叔母様は今でこそあの立派なお店のお內儀で、別に御不自由もなく御仕合せでは御座いますが、今から二十年計り前のある年の雪の澤山に降つた大晦日に、叔父様は近處に構つて在る女の家に入り浸りで、お店の方へは借金取りが次ぎから次へと推し掛けて來た物ださうでした。

叔母様は番頭を相手に仕樣も模樣もなく、たゞ困り切つてお出でになると、出入りの女髮結ひのお蝶さん——

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

此お婆さんが、自分の歳暮の祝儀の貰ひ集めに人から借り足して、百圓と云ふ其頃での大金を、横尾の叔母様に用立て丶上げたのでした。

横尾の叔母様はお蝶の情けによつてやつと一時の凌ぎをつけまして、それから叔父様の外套を着物の上から羽織つて、叔父様の長靴をはいて深川の不動様へお禮詣りをして、歸つて來て築地の橋で正月の旭を拜んで、思切り泣いたことがあつたと、あの叔母様が時々其頃のお話しをなさる度毎に、私は慄えるやうに襟元の寒さを感じたことが何度も〱ありました。

横尾の叔父様の亂行が其當時餘りに激しいために誰れ一人として叔母様に離縁を勸めない者はないのです、貞女も時によりては馬鹿だと人から笑はれる、一體あんな男に盡すよりは、乞食に金をやる方がよいと迄に烈しい事を云つて叔母様に離縁をすゝめた人もあつたさうでしたが、女髪結のお蝶計りは

あの旦那には恢復の見込みがある、云はゞ熱病をやんだ病人だとおもつて、看護婦になつた積りで辛抱をなさい〱と常に叔母様を勵まして居りました、叔母様は此お蝶をどれだけ強い強草と頼んでお出でになつたか分らないのです。

叔母様は義理や人情のいさくさをよく嚙み別けた苦勞人です故に、お蝶の恩を忘れないで實の親に盡す以上のことを此お婆さんに盡してお出でになります。

私も又田舍の母に敎はつた以上の事を横尾の叔母様から敎へて頂いて居ります、叔母様の恩人は私の身に取つても矢張り恩人だと思つて、たゞの八釜しやのお婆さんの小言を默つて辛抱をして聞いてあげて、交際を續けて居るのです。

此お婆さんの偉かつた事を話すならば、私が聞いて知つて居るだけでも、今夜夜通し話しても話し切れない程

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

にあるのですが、其中でも二十八九の女盛りの時に、亭主の代りに法廷に起つて裁判官を大分凹ませたと云ふ面白い話なんかもありますが、それは又此次ぎにして私も喋り疲れましたからこれでお終ひに致しませう
と由嘉子はやつと言葉を切つた、皆一生懸命に固くなつて聞き終つてホッと息を吐いた。
例の大學生が、お婆さんの爲めに健康を祝そうではありませんかと云ひ出した、甘いのがいい、いや辛いのにしやう等と我儘なことばかりを云ひ出したが
葡萄酒があると金之助が云ふ、ウキスキーもありますよと由嘉子が云ふ、
カチリ〳〵と盃を合す音がするとお婆さんはぱつと目をあけた、今迄退屈をして居ねむりをして居つたので在つた、
それから暫らくの間、勝手な雜談を初めたがやがて十時も過ぎたので泊る者は泊る、歸る者は歸ることとなつて由嘉子は玄關の戸を明けた。
秋の夜はしつとりとふけて、板塀の根元あたりに蟋蟀が鳴いて居る。
夕暮に一寸降つた雨が全くあがつて、月が一ぱいにさえ切つて居た、柿の葉からも枇杷の葉からも露の雫がこぼれかゝる、
金目の生垣に絡みついた烏瓜が一つ半ば赤くふくれたのが殊に一つ目についた、
こほろぎが又一しきり鳴く。（完）

大正二年九月三日

小口みち子

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

靜江さんに

座古愛子

靜江さん。けふはチト長い手紙を書きますよ。私、貴孃にお目に懸かつて、本當に貴孃に惚れ込んで仕舞つたのです。女性が女性に惚れ込むなんつて、可笑しなお話しのやうですが本當なんだから仕方ありません。

恁う申しちやお追從のやうですが、貴孃のお顏には氣品があります。私は今の多くの婦人の中に、その氣品のある人を見たくて堪まらないのでした。さうして滅多に見付け得られないのでありますが。計らずも二見のやうな漁師村に、貴孃を見出だしまして、幽谷の香蘭、沙濱の眞珠のやうな感の、切なるを禁じ得ないのであります。

美しい婦人は澤山あります。お化粧して、着飾つてゐる婦人は、見飽く程であります。けれど彼の女等には氣品といふものがありません。威嚴に乏しいのであります。買へば賣らうとするのであります。安價い女です。

けれど貴孃には、買ふて買ひ得ぬ或る物があるやうです。それが氣品です。女性の威嚴です。私の惚れ込んだのは其所であります。

然し修養すれば、菩薩ともなり得る人間も、放つて置けば夜叉ともなります。誘惑は、目には見えぬが、旋風のやうにこの世を吹き廻つて居ります。墮落はし易いです。貴孃がその儘修養に心掛けないならば、天賦のその尊い氣品といふものも、自然と消え失せて仕舞ふでありませう。

で、けふはその修養といふ事に就いて、「年の効」を笠に着る譯ではありませんが、一言致したいのであり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ます。「老ひの繰り言」とお忍びなすつて、お聞き下さいまし。

貴孃は今年が十六歳でしたね。現下が「青春の危機」といふ年頃なんですよ。天國に昇るのも、地獄に落ちるのも、社會に有益な婦人となるのも、また害毒を流す女性となるのも此處で一歩を誤るか、誤らないかの差から來るのであります。

一寸神戸あたりへ出て御覽なさい。いや神戸へ出るまでもなく、其ちらでも化粧品、小間物、呉服などの店頭に立つて御覽なさい。眩目するばかりで御座いませう。

また汽車や電車やに乘つて御覽なさい。まあ綺麗な！、と吃驚に堪へない程な婦人達が、直ぐ目に着きませう。けれど靜江さん。それが恐る可き誘惑なんですお心を平靜かにして決して迷うては可けません。

昔ペテロと云ふ聖者は、「汝等の飾りは髮を辮み、金を掛け、また美衣を着るが如き、外面の飾りに非ず唯心の内の隱れたる人、卽ち壞る事なき柔和、恬靜なる靈を以つて、飾りとす可し。この靈は神の前にて價貴きもの也」。と恁う申しました。嗚乎貴孃は唯貴孃のその氣品を飾りとして下さい。それが褪め易き、壞れ易き、朽ち易き物質などより、什の位尊いか知れません。

次ぎは異性間の問題です。恁話しをしましたら、嘸無遠慮なと蔑まれませうが、決してさうでありません。世の先覺や、親達や、友人やが、この問題に就いては、皆敎へもせず、導きもせず、緘默を守つてゐてさうして若し間違ひでも出來ますと、批難し、攻擊するのです。不親切の極といはねばなりません。

私は貴孃を愛する方のある事を、薄々知つてゐますけれど彼の方の愛が、戀であるか、否かは知りません若し彼の方の愛が戀で、そして貴孃もそれを甘受してゐなさるならば、そは戀の成立です。嘸お樂しみに盈たされておゐでの事と、私まで何んだか嬉しい心地がします。

けれど若し彼の方の愛が戀で、そして貴孃に戀の念

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ひがないのならば、その旨彼の方にお話しヽて、お斷り遊ばせ。片戀をアンマリ深みに陷らせますのは、恐ろしい罪ですよ。精神は自由なものですから、そをお斷りするのは、少しも惡い事でありません。

また若し相互に、情意投合の戀が成立してゐますのなら、貴孃は未成品である彼の方の成功するまで、忍んで節操を守らねばなりません。心に於いて已に許したら、社會慣例の形式など踐まうと、踐むまいと、什麼事は什麼でも、已に彼の方は貴孃の良人なんですから。

この方面に於ける誘惑も定めし多い事で御座いませう。けれど打ち勝つて下さいませ。藝者の眞似した女の見つともないと共に、役者の眞似したニヤケ男なんか、私には嘔吐の種です。貴孃も御同感でせう。貴孃のその氣品を守つてゐて下さい。

大變長くなりましたから、けふは右二ケ條で止めて置きます。が貴孃小學校でお歌ひになつたでせう。「鏡とするは、多くの書物」云々といふ歌を、殊に師友に乏しいでせう御地に在つては、什麼してもこの書物を師友と賴んで、修養するより外ありますまい。お仕事のお閑々に、御書見の程を、切にお勸め致します。然しまた古人が、「書を見て悉く信ずるは、書なきに如かず」と申して置きました。ですから善い本を撰んで讀まねばなりません。駄書濫讀は却つて有害の事があります。何れ後便で。この事に就いての御相談には乘りませう。

さうして愈々御修養に心掛けられ、益々貴孃の、その特有の御氣品を高ふせられ、大にしては社會、小にしては一家の光明となり給はん事を、只管懇願に堪へないのであります。

近年罕なる旱天、炎暑で、さらでだに大儀な病體。汗拭きと團扇使ひとに寸隙なく、目今書信も多くは代筆に致して居ります。そしてこれは晩菫氏に書いて頂きました。意のある所を汲んで下さらば、幸甚に存じます。（大正二年八月二十七日夕）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

今後の婦人

茅原華山

一

從來、婦人は賢母良妻主義で敎育されて來たから、今日尙ほどうでも結婚しなければならぬと思つて居る婦人が多いのである。其處で賢母良妻の生產過剩と爲つた。これでは配偶を撰擇するの權利が全く男子に歸するのも已むを得ぬではないか、若し婦人に場合によりては一男にだも見えないと云ふ覺悟があれば、結婚の撰擇權が女にある事になる、さうなれば、夫の不品行云々といふ樣な事を心配せずとも善くなるであらう。

自分の友人で一人後妻を世話して吳れと云ふものがあつたから、三十三になる婦人があると云ふとソレは迷惑だ、私は二十二三の婦人を貰ほうと思ふ、と云ふから、驚いて時に君は何才だと問ふと四十六だと云ふこれで二十才前後でいくらでも來る婦人があると云ふこんな風ではとても婦人の位置の高まりやうがない。

二

先達九州へ行つた時一友人の家へ寄つたら妻君が、四ッになる百日咳を病んで居る子と、生れたばかりの子とあつて、一人が寢れば一人が泣き出す、とう〱夜中一目も寢られないと云つて私に訴へた、全體何人產みましたと聞いたら七人だといふ。これまでの人ならばソレは氣の毒なと同情するかも知れないが。私はこれを聞いて子供を產むにも自覺がゐると考へた、乳母も子守も雇へぬものが、五人も六人も、產れるものは仕方がないと云つて產むのは、知惠があまり無さ過ぎる事だと思つた。今までの婦人はあまり自己を忘れて居た。

三

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

立派な學校を卒へた夫人が、私は新らしい女は嫌いだと云はれたから、あなたは新聞に誤まられた新らしい女を知つてさう云ふのだ。新らしい女と古い女との別を知つて居るかと私は聞いた。すると知らないと云ふから、つまり思想のある女と無い女との別で、同じ嫉妬をするにも單純なる本能の衝動でやきもちやくのと、個性の自覺によつて、婦人は夫が不品行な場合にも何せ默つていなければならぬかと考へて婦人の權利を主張するのとの差であると云つたことだ。又私は家族主義が好きだと云ふから、あなたの家庭は夫婦と小供ギリではないか、なぜ家族主義が好きなら國許から姑をつれて來て仕へないか、仕へて御覽なさい善いか惡いか、それをしないであなたが家族主義がよいと云ふのは、ツマリ子供に親孝行して貰はうと思ふからだツマリ利己主義からだ、マだ昔のロマンチックの夢を見て居る、醒めなければならぬ。

白樂天の詩に

三日入二厨下一　洗レ手作二羹湯一
未レ知姑食性　先使二小姑嘗一

と云ふのがあるが、從來の婦人の境遇をよく云ひ現はしたものである、これでは全く婦人の權利はないではないか、婦人自から奴隷主義だから西洋の樣に夫婦間に眞のフレンドシップが起らぬのだと云つた。

四

英國のスコツトランドで女學生に何になるかと云ふ質問を出した事がある、スルト一人のお嫁に行くと云ふものもない。或は著者になる。或は新聞記者になる或は銀行會社員になる、或は又タイピストになると云ふ樣なものばかりなので、不思議に思つて、我國では皆な良妻賢母だが、あなたの國ではソンな理想の婦人がないのはどうした事かと聞いて見ると、私の國も昔はさうだつたが、今では經濟上の變遷から職業が先きに立つからだとの答へであつた。

これからの婦人は全く男と同じキツイ婦人とならねば世に立てない、

五

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

我國の如き農國では、同一の場處に子孫代々居ると云ふワケから自然に家族主義になる、西洋では絶えず轉々移住したものだから、婦人が少なく從つて女價が騰貴したのだ、而して婦人ば再婚三婚幾婚でもかまはない。

西洋の生活難は何の位かといふに、年のいつた婦人の方が小供が出來ぬからよいといつて之と結婚する男が寡くないのだ。

日本には歴史上から來た家族主義の頭がある。唯命維從ふの精神がある、十年も彼方へ行つて居た男が日本に歸つて或高等女學校の女先生に結婚を申込むと、女は何うか父に相談して下さいといつたのに驚いたと云ふ樣な話がある。

神代及び藤原時代にはまだ武士道もなく家族制度も起て居なかつたから、婦人が最も活躍した。併しそれは原始的の活躍であつて、今後の婦人の活躍はソレとは違はねばならぬが、婦人が自覺して、全然その奴隸的服從より脱せねばならぬのは無論である。

頻死のをとめ

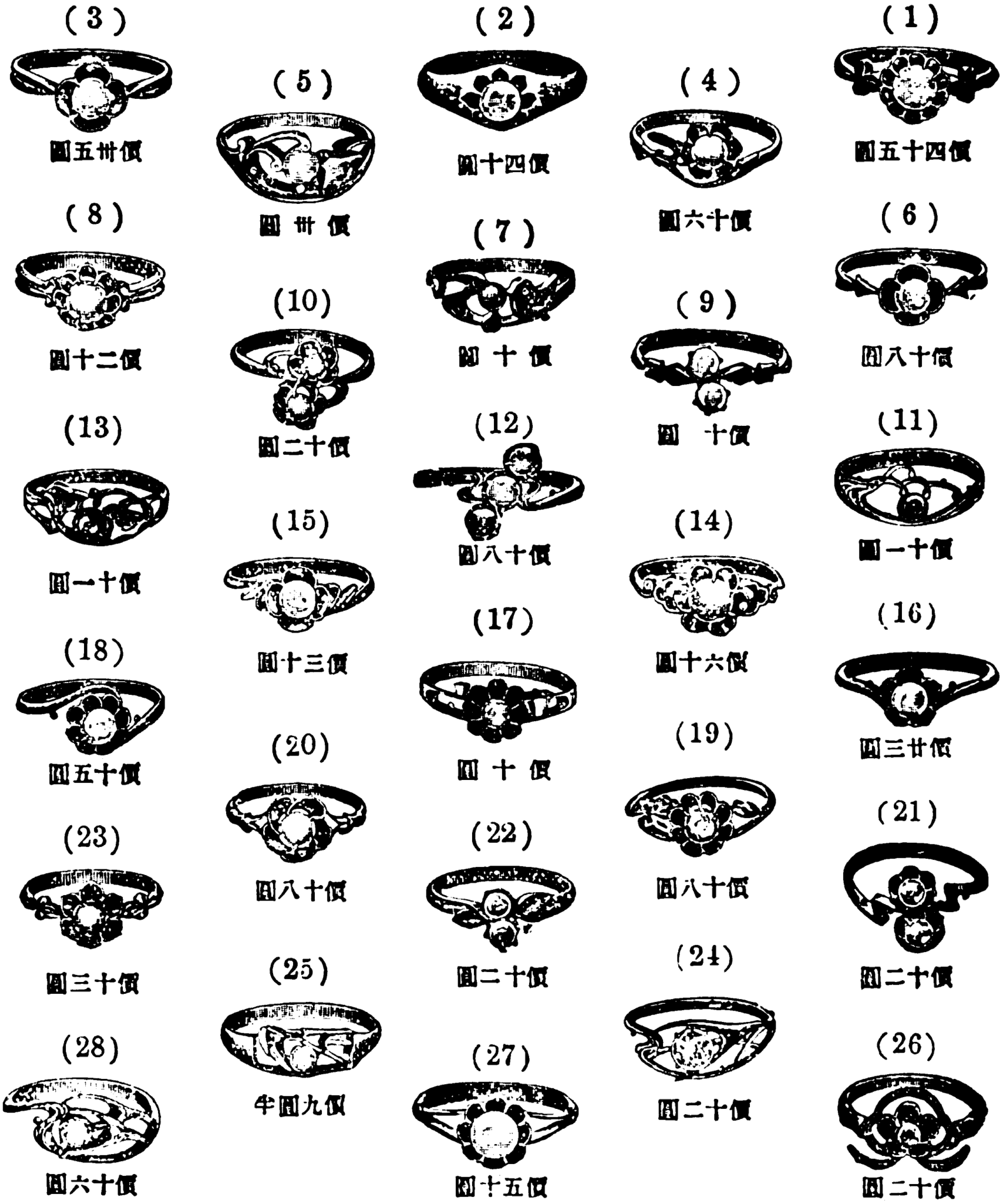
小口みち子

秋風やいてふかへしの鬢うらに、落毛からみてこほろぎのなく。
袖たけをことしは五分もつめぢやと人はきくかな涙しにけり。
しゆ子の襟やべんけい縞の素袷や、紀伊國屋めき秋は來にけり。
袖裏を無垢の生絹にかへばやと、おもひそめしがおとゝしなりし。
秋風よ世にはえうなき黒髮を、曳ける女の名を敎えんか。
アスパルトの道を落葉が四つ五つ、追ひつ追はれつ京橋に來る。
十月のついたちとなろうす袷着て、髪なでて何語らはむ。
草の香をしたひてとろけ行きにけり、銀座の夜ふけ、草市のあと。
柿の葉や枇杷や梧桐やほろ〳〵と、涙流して初秋となる。
秋の雨つめたき石の切石に、血としたゝりて緋牡丹となれ。
故里の田にはいなごが脊を黄に、染めて飛ぶらし十月は來ぬ。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

(天賞堂工場特製)

眞珠入十八金製指環一斑



東京市京橋區尾張町二丁目 十六、十七、十八、十九番地

天賞堂本店

電話 新橋 (特三三三、特三三四 / 特五七〇、特三一五三)

大阪市心齋橋 電話南七二三 **天賞堂大阪支店** ● **天賞堂橫濱支店** 橫濱市常盤町 電話六七八

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

村上専精先生序
久津見蕨村兄跋
藤岡勝二兄跋
田中治六兄跋

高島米峯新著

噴火口

三六判美装
定價八十錢
郵税八錢

著者心内に鬱積する熱火今や轟然として爆發しこゝに礫となり砂となり灰となりて四方に飛散すこれを惨状と言ふべきか是を偉觀と稱すべきか敢て讀者の批判に待たむを冀ふ蓋し著者の前著『廣長舌』『惡戰』等に比し來つてその愚論惡文更に一段の進境あることを看取し得む

▲廣長舌　高島米峯著（好評四版）　定價七十錢　郵税八錢

▲一休和尚傳　高島米峯著（好評五版）　定價九十錢　郵税八錢

▲現代青年論　高島米峯著（新刊）　定價十五錢　郵税二錢

▲理想的商業　高島米峯著（好評二版）　定價廿五錢　郵税二錢

▲惡戰　高島米峯著（好評四版）　定價八十錢　郵税八錢

▲學生參考 東洋史　高島米峯著（好評十三版）　定價十三錢　郵税二錢

東京小石川區原町六　振替東京一五八六八　**丙午出版社**

東京小石川區原町六　振替東京一三五三　**鶏聲堂**

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

速成 英和少年會話

好評五版寫眞畫入總布價卅五錢郵稅四錢
此少年會話を讀めば誰でも英米人と對話が出來る
カルタ遊、テニス、飛行器、水泳、花見自轉車、
動物園、活動寫眞、電話のお話まで出來る

英語のおしへ

假製分本 一冊拾錢(郵稅共)
合本總布 五十錢郵稅八錢

英作文のおしへ

全二冊 金貳拾錢(郵稅共)

本廣告の書籍
一割五分引
優待券
期限十二月卅一日限

新案英和 會話獨習

洋裝六百頁 價六十錢 郵稅六錢

小學英語獨習

紙數四百頁 正價三十錢
好評十六版 郵稅四錢

マリー・イーストレーキ著

英和十二ヶ月會話

全一冊 金卅五錢 郵稅四錢

ロイド博士外五氏著

中學 英和新字典

好評七十版 正價六十錢 郵稅六錢

同先生共著

中學 英和大字典

好評三十版 正價九十錢 郵稅八錢

發兌元 東京銀座三丁目三番地 電話長京橋一〇四一番 振替口座一八三參二番

東華堂書店

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

大正 婦女社會

十月一日號目次

◎熱湯があつくなくて冷水があつい……文學士 村上辰午郎

▩紙でこしらへた鐵砲と寺院……林學博士 本多靜六

△諸人種婦人顏面の裝飾……故理學博士 坪井正五郎

女學生と雜誌 文學士 村上辰午郎

田舍を嫌ふ女學生……下田歌子

○浪花節 赤垣源藏……早川辰燕

□講談 初日出姉妹仇討……龜甲齋白若

○小說 夢の松風……竹内蘆笛

○小說 漂泊美人……岡田朝聲

○雀のお宿……中瀬子

○貝の話……岸上理學博士

○變裝視察記……女記者

○西川村と矢祭山……むらかみ

○通信小話……安田麹町局長

○繪草紙の敎へ……小川直子

眼で石を動かし頭上で火をたく印度人……女記者

○松尾多勢子 三輪田眞佐子

農業道德 村上文學士

○牛乳よりも山羊の乳……醫學博士 加藤照麿

△衣服の進歩……醫學博士 片山國嘉

●本號より特に廉價とす

一册郵料共拾錢
半年分六册郵料共六拾錢
一年分十二册郵料共壹圓

發行所 東京市麹町區下二番町七〇 大正婦女社 振替口座二〇五九九番

家庭之友

十一月一日發行

一冊定價十一錢 郵稅共

日本で初めての赤ん坊展覧會は世人の注目の中心となり、その結果は家庭教育上多大の參考を與へたり詳細は寫眞と共に精しく本誌に發表す

△各當選者母親の苦心談を讀め▲

▲三百有餘名の赤ん坊の成績及統計發表△

▽赤ん坊展覧會成績發表!!

田舍者の見た東京の女　花散里

三度肺病を癒した實驗(二)　高島米峯

おかあさんばかりの衞生(四)　岡村ドクトル

精神病と色との關係　狩野謙吾

△女中會の發表▽

姙娠中の養生　醫學博士　濱田玄達

講談

夫婦の仇討　無心庵鶴來

三人塚　泊船軒貞丈

その外面白い讀物數十篇あり

東京市本郷區坂下町　家庭之友社

一年分一圓八錢半年六十錢

振替東京二一八〇七番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

瀬沼夏葉女史譯

チエホフ
二大戯曲

櫻の園
(附)叔父ワーニヤ

袖珍型天金特製
「鴨」と同型美本

■定價六拾錢
■郵送料六錢

『櫻の園』附するに『叔父ワーニヤ』を以てして、チエホフの二大脚本に收めたり。此二作が識見ある總ての批評家の推讃を受け、歐洲各國の劇場に演ぜらるゝこと實に幾百回。犀利にして皮肉、深刻にして明快、ユーモアに富みたる彼れ一流の哲學及び人生觀と、其の圓熟渾成せる技巧の姿とは、以て遺憾なく窺ふことを得べし。夏葉女史はチエホフに私淑多年、チエホフ紹介者としての確き自信と自負とを以て此二作を原語より邦譯す。その辭句、その調子、はた其氣分を傳ふるに於いて、一毫の間然すべきものなきを疑はず。小社は此稀有の好譯本を我が文壇と劇壇とに提供するを得るを光榮となすもの也。

東京市麹町區飯田町
三丁目二十五番地
新潮社
電話番町二二二三番
振替東京一七二四二番

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

世界之日本

三週年紀念號の壯観を見よ

一年分税共金一圓廿錢　月一回　四卷十號　拾月號　定價税共拾壹錢　半年分税共金六十錢

●阿部局長の暗殺事件を論じて當局に誨ゆ
●選擧權は何處まで擴張すべき乎
社説

▲乃木伯に關する追懷……石黒男爵
▲今日からは沙婆の苦樂も笑ひ種……加奈太貿易商 田村新吉
▲縱橫無人論……吉田生

■下山利春君を憶ふ……橋本鐵山
□我黨の選擧權擴張問題演説會……記者

■衆議院議員年齡調べ

□世界之大勢……
■政界近情……
■社會日誌……
■英雄と刺客……

●毆たれても怒り得ぬ人種……醫學博士 佐伯矩

選擧權擴張問題

▲議會をして國民の議會たらしめよ……永井柳太郎
▲普通選擧を唱ふる勿れ……大隈重信
▲拾人に一人位の割合を可とす……浮田和民
▲飽くまで普通選擧を提唱すべし……黒岩周六
▲何ぞ朝鮮貴族に與へざる……井上角五郎
▲通過し易き程度を擇べ……三宅雄二郎
▲余は擴張に不贊成也……後藤新平
▲大木遠吉
▲佐伯矩
▲小久保喜七
▲尾崎行雄
▲安部磯雄
▲村野常右衛門
▲河野廣中

●憂國憤激錄……記者 坂本正雄

●評論之評……幹事長 橋重兵衛

■稻門のお歴々……早稻田學人
■慶應辯論部評判記……霹靂火
■大隈伯邸の半日……秋火生

■東京市の暗黒面……毘盧舍那
■西行法師……關屋眞可爾
■伊賀の山里より……村島歸之
■詩
■歌
■小品文
■新刊紹介……

其後の電燈問題

■咄！安藤電燈部長の言ひ草……世界之日本社長 橋本徹馬
■未だ干渉の時機にあらず……遞信省電氣局長 中谷弘吉
■元田遞信大臣と語る……橋本徹馬

發行所　東京駿河臺神田　世界之日本社　振替東京二六八六六

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

岩野泡鳴氏著

●●新刊●●

小說 五人の女

五人の女とは

●お島と亭主……は中年のヒステリー女、微細な心理描寫に於て我文界の先驅を爲した。

●藝者になつた女……は亭主も子もあつた生粋の江戸ッ兒。

●鶴子……京都名僧の遺兒で我から身を某料理店の養女に賣つた娘。

●馬鹿と女……には牛屋の強慾な細君。

●店頭……には衰退期の四十女の心裏。

以上共に著者獨特の無駄の無い而も辛辣痛切の人情的筆致を以て描寫せられてゐる。乞ふ本書を試みに讀給へ。

名取春僊氏意匠製本頗瀟洒 四六判三百二十余頁 價七拾五錢 送八錢

東京日本橋 春陽堂發行 振替一六一七番

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

カシタンカ（飼犬の名）

チエホフ作

第二
不思議な見知らぬ人

カシタンカは何にも思はないでたゞ啼いた。

綿のやうな雪はいよ〳〵ふり來たつて、彼の頭も背も、もうすつかり雪に蔽はれた。が、其中に彼は疲勞て何時かとろ〳〵と重苦しい眠に沈む。

俄に表の入口の戶がギーと音をして開いたかと思ふと、はたと彼の横腹を戶が突いた。彼は飛上つた。中から何處かの見知らぬ、お顧主の部類に屬してゐる人間が現れた。所が其の人は、丁度カシタンカが戶に突飛ばされたので啼いて彼の足下に躓いたものだから、自然犬に注意を向けない譯には行かなかつた。彼は彼に身を屈めて訊いた。

『こら、貴樣、何處から來たんだ？、俺は貴樣を打つたかい？、可哀さうに、可哀さうに……なあ、よしよし、怒るな怒るな……勘辨しろよ。』

カシタンカは雪の降掛けられてゐる睫を透して見ると、自分の前に脊の高くない、肥つてゐる、綺麗に髭鬚を剃つた丸顏の人が、絹帽を被つて、毛皮の外套の前を開けたまゝ立つてゐる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『何なくん〳〵啼いてゐるのだ？』と、彼は續けて云つて、指で彼の背の雪を拂つてやろ。『何處なのだ、お前の主人は？ 屹度逸れて了つたのだらう？ なあ、さうか、可哀さうにな――、ぢや奈何しやうかなあ？』此の見知らぬ人間の何となく、優しさうな、親切さうな物言ひ振りに、カシタンカは嬉しく、彼の指をぺろ〳〵舐めて、さも訴へるやうな聲で又啼いた。

『ふむ、貴樣は可い奴だ、可笑い奴だなあ！』と、見知らぬ人は云つた。『まるで狐だ！ まあ仕方がない、一所に來るが可い！ ひよつとして何か役に立つかも知れない。どれ、ヒイ――！

彼は口笛を吹いて、手でカシタンカにたゞ一つの意味を見せた。『來い！』カシタンカは彼に尾いて行つた。

三十分程經たない中に、もうカシタンカは或る廣い、明るい部屋の床に坐ることが出來た。彼は頸を傾げて、快よささうな、又珍らしさうな顏で、今、食卓に向つて食事をしてゐる例の見知らぬ人間を瞶めてゐた。其人は食べながら食ひかけを彼にも投げて遣つた……初めにパンの缺片と、チイスの靑くなつた皮をやつた、それから肉切と、肉饅頭の半分、鷄の骨をも呉れた。彼は酷く空腹だつたので、皆ぺロリと味も解らずに見る間に食べて了つたが、食れば食る程彼は猶一層食べたくなつた。

『貴樣の主人は食物を碌に呉れなかつたと見えるな！』と、其人は、彼の酷いがつがつの、噛むのも間に合はないで鵜呑にしてゐる樣子を見ながら、恁う云つた。

『さうして何と憔悴な奴だらう！、骨と皮ばかりだ……』

カシタンカは食べても、食べても未だ腹一杯でなく、たゞ食物に醉ふたかのやうだつた。食べて後、彼は室の眞中に寢轉んで、足を伸して、全身に心持のよい懈さを感じながら、尾を振り出した。其新主人が肘掛椅子によつて葉卷を燻らしてゐる間、彼は尾を振りながら種々の問題を解決してゐた。何方が可いだらう、此の見知らない人の所と、あの先の主人の建具屋と？、此の見知らぬ人の所は、見るところ貧乏らしい、綺麗でない、さうし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て肘掛椅子と、長椅子と、ランプと敷物の外には何にもない、室の中はガランとしてゐる。が、建具屋の方は室中いろ／＼の品物で一杯で、卓もあれば、削臺もあり、鉋屑の山もある、鉋も、鑿も、鋸も、鶸の籠も、桶もある。又、此の人の處には何の臭もないが、建具屋の處には、始終家の中がもや／＼と霞んでゐて、殊に可いのは糊の臭と、假漆の臭、それから、鉋屑の臭とである。だが、此の人の處にはたゞ一つ最も可いことがある、この人は食物を澤山呉れる、公平に見て云へば、彼が卓の側に坐つてぢつと此の人を見てゐた時も、此の人は彼を一度も打ちはしなかつた、さうして足を踏鳴して、一度も『出ろ、こん畜生！』などと叫ばなかつた。

新しい主人は葉卷を燻らしてゐたが、衝と立つて次の間に出て行き、又直ぐに手に小さい蒲團を持つて入つて來た。

『さあ來い、此方へ來い！』

と、其人は云つて小蒲團を室の隅の長椅子の側に置く。

『さあ、此處に寢ろよ！』

さうして其人はランプを消して出て行つた。カシタンカは小蒲團の上に寢て眼を瞑した。街から犬の聲がする彼はそれに答へたかつたが、其時急に何だか悲しくなつた。彼は舊の主人、ルカ・アレクサンヅロキッチの息のフエジュシカと又その寢心の可かつた削臺の下の場所のことを思ひ出した……彼は先に、冬の長い夜に、主人の建具屋が鉋で木を削つたり、或は聲を出して新聞を讀んでゐると、其側でフエジュシカとよく巫山戯ながら、いつも遊んだ……フエジュシカは削臺の下から、カシタンカの後足を持つて引張出し、さうしてもう彼が眩暈がして眼に青い物の見えるまで、節々が疲れ切つて痛むまで、いろ／＼な眞似をして騒ぐのであつた。後足で彼を立たしたり、尾をくい／＼と引張つてそれで彼がきやん／＼啼くのを、鐘の音だと云つて喜んだり、煙草の臭を嗅し

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

たり……殊に酷かつたのは、フェジュシカが肉切を糸に結ひ附けて彼に遣るのだつた、彼はその肉切を行成呑んで了ふと、フェジュシカは大笑ひをして、而して其糸を引張つて、彼の胃から其食べた肉切を又引出す、這麽思出のはつきりと頭に浮べば浮ぶほど、カシタンカは悲しくなつて、くん〳〵と啼いてゐた。

然し疲れと、暖まつたのとで、間もなく悲しさが消えて行つて、眠り初めた。彼の夢に、何匹もの犬が走つて来て、彼の側を駈けて通つた。其中に一匹の毛のむく〳〵した年老の狆が通つた。其れは彼が今日街で見た片眼の白くなつた、鼻の邊に房になつた毛のある狆なので。フェジュシカは厚鑿を手にして、其犬を追駈けた。所が急にフェジュシカが今度は其むく〳〵の毛を被つて、愉快に啼いて、忽ちカシタンカの側に現れた。彼とカシタンカは互に仲よく鼻面を突合つて、嗅ぎ廻して、さうして通に駈出した。

第三

快よい新しい知合

カシタンカが目を覺した時には、もう夜が明けてゐた、街からは晝らしい騒が聞える、室の中には誰もゐない彼は伸をして欠をして、怒つたやうな、難しい顔をして、室の中を歩き出した、而して室の隅々や品物の臭を嗅いで見たり、次の入口の間へも行つて見たが。別に何にも面白いものを見出さなかつた。彼が今出た入口の間の戸の他に、また向うにもう一つの戸があつた。カシタンカは考へながら、その戸を前足の爪で引掻いて、とうとう戸を開けて、次の間へ入り込んだ。其所には寢臺があつて、それに誰かお顧主が毛布に裹まつて寢てゐた、これは彼が昨夜知合になつた其人なのであるとすぐ解つた。ウウウウと彼は唸りかけて見たが、昨夜の食事のことを考へ出して、尾を振つて臭を嗅ぎ出した。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

彼は其人の着物や、靴を嗅いで見て、何だか馬臭いと思つて。寢室からもう一つ何處かへ脱けられる矢張閉まつた戸があつたが、カシタンカは足で引掻いて、胸で突き押して戸を開けると、俄に彼は何だか變な訝かしいやうな臭を感じた。屹度何か厭なものがゐるなと、彼は早くも感じて了つて、唸つて後を顧みながら、其處の壁紙の汚れた小さい室に入つて行つた。が、恐しいので後退りをした、彼は思ひも寄らない怖いものを見たのであつた。頭も、頸も殆ど地に付くばかりに低く屈めて、羽を擴げた鼠色の鵞鳥か、ケーと云ひながら、眞直に向つて來た。其處から少し離れてゐる小蒲團の上には、又白い猫が坐つていたが、カシタンカを見るより急に背を高く丸くして、尾を立て、毛を逆立て〻唸り出した。犬は冗談でなく喫驚したけれども、また自分の憶病らしい風を見せろのが厭さに、大聲に吠えながら、猫に飛掛つた……猫はいよ〳〵其背を高くして、唸つて、足でカシタンカの頭を打つた。カシタンカは後退りして、矢庭に四本の足を突いてぴつたりと坐りながら、頭を猫の方に突出して、大きい聲で、わんわん吠えろ、すると鵞鳥が何時か犬の後に廻つて來て、彼の背を嘴でいやと云ふ程に突いた。カシタンカは躍り上つて此度は鵞鳥に飛び掛つた……

『奈何したんだ？』

と、怒つたやうな大聲が聞えたかと思ふと、新主人は朝着のま〻で葉卷を口に啣えて、この室に入つて來た。

『奈何したつてえのだ！、ちやんとしてゐろ！、めい〳〵自分の場所に！』

主人は猫の處に行つて、其高くしてゐる背を指でピンと彈きながら云つた。

『フョードル・テモフエーヰチ。何うしたのだ？、喧嘩が初まつたのか？、えい、この横着老爺！、それ、ちやんと寢てゐな！』

と、云つて彼は又鵞鳥の所にも行つて叫んだ。

『イワン・イワノヰチ、自分の場所に行きな！』

猫は小さくなつて自分の舊の小蒲團の上に居直つて眼を瞑つた。其顏の樣子と髭の動きとで察しると、彼れ自身も、這麼喧嘩を初めたのを面白くなく、殘念に思ふものゝやうであつた。カシタンカも間の惡るさうに鼻を鳴した、鵞鳥は頸を延して、何のことだか早言で熱心に判然と云ひ出したが、一向譯が解らない。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『よし、よし、よし！』と、主人は欠をしながら云つた。『仲をよくするんだ、友達になるんだぞ。』
彼はカシタンカを撫て又云つた。
『これ赤、貴樣恐かないぞ……此處の奴等は可い奴だよ、何にも爲やしないぞ。まあ待て、さうさ何と貴樣の名を呼んだものだらう名なしぢや仕樣がないからな。
主人は考へてさうして云つた。
『あゝさうだ、いゝか、貴樣は『小母さん』が可いだらう……いゝか？、『小母さん！』さうして彼は幾度か繰返して云つて聞かせた『小母さん』と。
さうして主人は出て行つた。カシタンカは坐つた周圍を觀察した。猫は小蒲團の上に動かずに坐つて、恰も眠つたやうなふりをしてゐた。鵞鳥は頸を延ばして、一つ所にゐて足踏をしながら、矢張何か早言に熱心に云ひ續けてゐる。見るところ、彼はなか〳〵利口のやうだ、彼は軈て其長文句の演說を終ると、自分でも驚いた風に、後へ退りながら、さも其の演說に滿足したやうな樣子をする……カシタンカは彼の演說を聞いて『ウウウ』と云つて彼に挨拶して、隅々の方に行つて臭を嗅ぎ出した、一方の隅に小さい木鉢があつて、それに水に潤かした豆と水に浸した黑パンの缺片とがあつた、彼は豆を少し食べて見たが、不味かつた、此度は黑パンの缺片の方を食べて見た、これは奈何にか食べられた。然し鵞鳥は自分の餌を、この知らない犬に食はれても、些とも怒つた樣子もなく、却つて先よりも、もつと大きい聲で熱心に何かを云つて、猶其上に自分が犬を敵視しないのを見せやうとしてか、自分も其木鉢の處に行つて、少し計り豆を啄んだ（未完）。

瀬沼夏葉譯

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

私は贊主です

桃代

世間で不品行と申ますのは、男子がたゞ遊ぶのを云ふのでしやうか、ソレとも肉の方でしやうか、肉の方は絶對に惡いと思ひますが、お酒をのんだり御交際で遊ぶことまでやかましく云つてはならぬと思ひます。務め先きで四角張つて居て家庭でも上下着て居てたまには氣散じに遊びに行く事も出來ぬとあつては男子もやりきれませぬぢやありませんか。又御交際に遊んでお酒の上での事はまだ恕すべき點も御座いますが、私はそれよりか日本にはよくある、女中にどうのかうのと云ふ事は本當にいけないと思ひます。それも妻君が病身で堪へられぬから、妻君からどうぞかうして下さいと、頼むのなどは昔風ですけれど、まだよろしいが、妻君が壯健で何の申分もないのに女中に手を出すのは、惡い事だと思ひます。私の知つて居ります或家庭で女中にでも小間使にでも婆やにでも皆手をつける主人があります、それが愛情があるのでも何でもないたゞ出來心ですから、直ぐあきて了つて、金でも取らせて出す、又代りを入れて直ぐ手を出すと云ふ風なので、まだお若い妻君は眞に苦勞にして居られます。

男は妻のある以上、他の女には笑談も云つてはならぬと思ひます。女はうぬぼれ心の強いものですから、それを他に持て行つて話します、と第三者が聞くと本當にするのですから大變誤解される事になります。

男子が女の前で赤裸になる事などもつゝしまねばならぬ、殊に奉公人の前などでは兎角不用意になるものですが、實にこれは氣をつけねばならぬと存じます。

妻君は憎まれものにならねばならぬ、あの家の御主人やお母樣は實にいゝお人だが、若奥樣が惡い、若奥樣の來ない前は善かつたがと、聞くことが屢々であるが、ソンな奥樣に限り實にエライ方が多い。たまには本當に惡い人もあるが、十中八九までは御自分一人惡者になつて夫や御母樣を善い人にしておきになるので、その奥樣がゐらつしてから始めて家らしくなつたのです。女中でも惡い女中だ〱と云はれるのに限つてお上思ひです。その反對にいゝ奥樣だ〱と云はれ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

てゐる夫人はその實、家の爲めには少しもならぬ、着物でも何でもズン〳〵下げてやつて了ふと云つた樣な方です。私はこれでも家の中では君主です、主人は客です。お前が使つて見て惡いものは仕方がないから出すがよいと夫も申して居ります、私の云ふ事を聞かないわけには參りません。その代り外の事には一切私は喙を入れません、尤も分りもいたしませんから、兎に角家内中では妻が一番こわいものだとなつて居ればよろしいと思ひます。

○

婦人が大學に入つたりする樣になると困る、婦人は虚榮心の強いものだから虚榮の爲めに大學に入るものが出ると云つた人がありましたから私は大變怒つてやりました。自動車に乘りたいとか、美しい衣服が着たいとか云ふのならば、虚榮でもあらうが、學問ばかりは虚榮では出來ない、第一頭が良くなければ出來す、それも二十前後の人ならですが、三十にも四十にもなつてから學問しやうと云ふには、よく〳〵の事情があるのです。ソレに私どもの樣に夫の收入で食べて居られるものは、時間を造つて勉強しやうと思へばいくらでも出來るのですから、彼の方々の話を聞くにつけ勿體ないうつかりしてはいられないと奮發する動機になり、その爲めに大變勵まされます。又女が學問すると御亭主よりいばるからなんて舊弊な事を云ふ人もありますが學問と人情とは別ですから、本當にエライ人ならば決してソンな馬鹿な事はありませぬ、まして女が大學に入るがよいからとて誰れにでも出來る事ちやないのですものね、第一馬鹿では出來ず、第二相當にお金がなくては出來ませぬからね。

〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰

みち子

秋の髮手さわり少しさら〳〵と三宅あぶらの香がしみわたる

松たけの香りと稻の穗の匂ひ、柿みのりしや播磨の母よ

すゞむしが來てなきにしはよもすがら、こゝかあたりの土しめりける

もみの絹板張りすればてふのとぶ、コスモスの花と黑髮

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

研究

婦人寄生論

（オリブ・シユライネル女史の『婦人と勞働』紹介の三）

高野重三

第二章

第一章の梗槪　機械の發明其他によりて、社會の生活狀態が變り、男女共に手や足で爲さればならぬことが少なくなつた。併し男にありては手足の勞働が減少しても、其の代りに頭の力を要する仕事が增へたが、女にありては手や足の勞働が減つて、而かも頭の力を要する勞働が增へない。今はモウ小供を生むと云ふ一事しか女の爲めには殘されて居らぬが、ソレさへも、今日はモウ左程重要視せられなくなつて來た。今は其程に澤山の小供を生むことを要せなくなつて來た。以上が第一章の梗槪で、其の結果はドウなるでしようと云ふのが、第二章で論ぜんとする所である。

二

若しも諸種の機械の發明其他が、ダン／＼家庭の仕事を奪て、衣服を拵へることでも、食物を拵へることでも、其の多くが工場の仕事であるに至つたと云ふのが眞であるとせば斯く家庭の仕事が外へ出て行くに從ひ、婦人も亦た外へ出て行て、工場なり其他なりの指揮者ともなれば、監督者ともなり、又所有者ともならねばならぬのであるまいか。

若しも小供を生むと云ふことが、婦人の働きの一小部分と云ふことになれば、其の働きをしたい婦人は、ソレと同じ程の名譽ある社會的の働きをせねばならぬのであるまいか。

若しも小供を敎育することも、ダン／＼複雜に且つ科學的に成りつゝあるものとせば、吾々婦人も、其の

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

任に堪へ得る樣敎育されねばならぬのであるまいか。

若も子を生むにしても、今日は昔程澤山に生むを要しないとせば、自然小供を生む期間と云ふものが短縮して、子を生まない期間と云ふ者が增へて來る。此時間を非常に有益なことに使はねばならぬのであるまいか。

若も力役と云ふ者の地位を、智的勞働がとると云ふ傾向があるならば、吾々婦人もソレに適應することが出來る丈けの智的敎育を受ねばならぬのであるまいか。

徐ろにではあるが、最早や避くべからざる勢を以て舊い型の勞働が吾々の後に消へつゝあるのだから、吾々婦人は何んとしてでも、新しき型の勞働に這入て行かねばならぬ。吾々婦人は此の要求を吾々自身の爲めばかりにでなく、又實に吾等の人類を救ふ爲めに爲さねばならぬのである。

例へば或人が夜間騎馬で山道を進みつゝあつた所、突然馬が踏み止まつて、何んと鞭うつても進まない、何んだか非常に恐れ戰いて居る樣子で何んとしても進まない。馬上の人には其の確かな原因は分らぬが、或は馬が我儘をしたい爲めではあるまいかとも思ふたが兎に角何んとしても進まぬから、止むを得ず馬首を橫道へ向けて進行した。其の內に夜が明けたので、振り返て見ると、彼の道を馬の進まざりしも道理、若しも尙ほ一步進めば、人馬倶に千仭の谷底へ落ちて死なねばならぬのであつた。ソコで始めて、先きに馬の進まなかつたのは、怠けたのではなかつた、實は馬の方が直覺が銳敏であつたのだと云ふことが分つた。今日婦人が舊い道で、立ち止まつて進まないのは、夫れと同じことで、何にも無責任なことをしようと云ふのでもなければ、他の者を犧牲にして自分ばかり甘いことをしようと云ふのでもない。今日はものが混雜して居て前の見へない人が多いから、ソウ誤解するのであつて、實は今日、婦人が舊き道を進まずして、新しき道を行かうとするのは、一步を過ればドンナ危險に遭ふかも知れぬと云ふことを、感じて居る爲めではあるまいか。

二

世には男子の勞働問題と、婦人の勞働問題とを同一

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

視する人あれど、之れは大變な間違である。科學が進歩した結果、諸種の發明が續出し、其の爲め凡ての勞働の狀態が變つた。之れが男子の勞働問題の起る原因でもあれば婦人の勞働問題の起る原因でもある。コ、までは同じことであるが、之れからは違ふ。男子にありては、舊き勞働が駄目になれば、新しき職業を見付けるか、餓死するかの外に道がないが、婦人にありては、新らしき職業を見付けなくても、餓死せなくても濟む、若しも男子にさへ寄生せば、即ち婦人の勞働問題は勞働か死でなくて、新しき勞働か、寄生か、ドチラかである。

（コ、の所が此の頃新しく出來るアチラの婦人問題の本には能く引用されてある）

歷史を研究して見るに、如何なる國でも、國が開けて盛んになつて來るに從ひ、婦人が次第に力役をしなくてもよくなり、たゞ男子の情慾をみたす道具に過ぎなくなる風がある、而して其の結果、國が必らず滅亡して居る。歷史上に幾度も幾度も此の事例が繰り返されて居る。婦人の寄生は斯く恐ろしきものであるが、昔は其の影響の及ぶ所尙ほ一小部分に止まるの風があつた。併し今日は其の影響廣く、殆んど世界全體に及ばんとするものであるから更に恐ろしい。

若し力役の必要がなくなれば、男子は一生懸命になつて、新しき智的の働きを見付けようとするが、婦人は、力役の必要がなくなれば、多くはたゞ生殖に關する受動的の働きしかしなくなる。而して弱々しき家内の手で出來た奇麗な衣服を着て、他の者の料理した甘い物を食べて、其他何んでも他の者にして貰ふことになる。力役は去て其の代りに智的の働きが這入つて來す、女は香水さへも人にぬらせ、外へ出ると云へば必らず車に乘る。コンナ女は子を生むことさへ嫌で、若しも不幸にして小供が出來ると、直ぐ他人の手へ渡して了ふ、彼女等には全く自分自身で努力すると云ふことがない。啻に子を生むことを嫌ふばかりでなく、何んでも心配すること、力の入ることは悉く嫌で、たゞ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

奇麗な衣服を着て、堂々たる家に住み、自分の情慾及び男子の情慾に滿足を與ふることしか考へて居ない。彼女等は、社會の爲めに何等生產的の仕事をもしないものである。今日、巴里や倫敦や紐育に、コンナ婦人が幾人あるか知れぬ。彼女等は一寸見ると貴婦人だが、實は人間の寄生虫で、社會に損害を與ふること甚大である。

希臘の歷史を見るに、其の尙ほ若々しかりし時代に於ては、婦人は何れも皆な種々な仕事に努力して居る。自から水も汲めば、洗濯もし、臺所の働きもすれば、病人の看護もし、衣服も拵へてる。又頭のよい婦人は尼にもなれば、豫言者にもなつて居る。王妃さへも自から井戶傍に出て水を汲んで居る。カウ言ふ婦人の腹から希臘を偉大にした英雄だの、藝術家、哲學者だのを生んだのであるけれども、年を經て上流階級の人々は多くの奴隷を使役し、彼等の拵へた富で衣食し得る樣になるに從ひ、其の階級の婦人は悉く何んにもしない寄生者となつて了つた。男子は衣食の爲めに勞せなくても善いと云ふことになりても、智的勞働を求めて行つたが、婦人は何んにも求めない。されば基督降生前四五百年には、希臘の文華燦然たるものありしも、實は此の時既に其の中心は腐敗しつゝあつたのである。男子は智的勞働へと移り行くに、女子は何んにもしないから、ダン／＼男女の懸隔が甚しくなり、果ては男女の間全く意志同情が通じなくなつた。ソコで男色が流行するにさへ至つた。

此の事はソクラテスと其の妻ザンチイツプとの間を見ても分る。ソクラテスは、日々外出して、街頭で、其の愛する青年、アレキシビイエーデスと色々哲學上の議論などを戰はして悅こび、無學なる妻君は夫の境遇に同情することも出來ず、家內でヂレてばかり居たのである。成程アスペシヤ(ペリクリスの妻)と云ふエライ女もあつた、或はサッポの如き女詩人もあつて、非常な天才を發揮し、男子と共に智的活動をしたものである。併し之れはホンの例外に過ぎぬ、一般の婦人は無敎育で、更に何等の力役も智的働きもしなかつ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

たっ若しも當時の婦人が悟る所ありて、智的に働いて居たならば、希臘は滅亡せなかつたであらう。けれども悟らなかつたからフキリプ王が少しく賄賂すると國が動き、遂に其の子アレキサンダー大王の爲めに亡ぼさるゝに至つた。アレキサンダーの母オリンピヤは非常に元氣旺盛な活動的の婦人であつたが、此の婦人の子の爲めに希臘は亡ぼされたのである。

羅馬も同じく、始めの中は男女ともに力役なり智的勞働なりに就事して居たが、やがて各國を征服して富と奴隷の增へてからは、女は何んにもしないで、ウカウカと其の日を暮らす樣になり。其の爲め遂に、自分よりも野蠻な北方の蠻族の爲めに亡ぼさるゝに至つた。若しも其の當時も、婦人が男子と同じく、せめて智的に丈けでも勞働して居たならば、羅馬は必らず亡びなんだであらう。

羅馬を亡ぼした北方の蠻族は、其の敎育から云ふても、其の社會制度から云ふても、大に羅馬に劣つて居たが、たゞ其の男女の間が極めて純潔であつた。例へば男が女に結婚を申込む、其の時の結納は、自分の喉や手足などにかける金の輪でなくて、楯と鎗と刀と而して牛の軛とであつた。其の返しとして女の方よりは甲冑一着を贈つたものであつた。之れは平和の時にも戰爭の時にも苦樂を俱にしようとの贈答であるとのことだ。此の時のチュトン民族の婦人はエライもので、平時は勿論、戰場に於ても常に其の夫と共にあつた。伊太利征伐の時の如き其の戰車の中より婦人が鎗や棒を出して大に羅馬兵を困らせたソウな。而して不幸にして敗戰した場合には、先づ己が小供を殺して續ひて互に差し違ひて或は自刄したものだサウだ。羅馬は斯かる偉大の婦人を有せし民族の爲めに亡ぼされたのである。

猶太にしても、土耳古にしても、乃至は支那にしても、希臘や羅馬と同じ歷史を繰返して居る。

廣き意味で云へば、國の亡ぶ原因は餘分の富と、贅澤と、ソレからして人種の氣力の萎靡して振はぬことにありと云へようが、其の元氣の萎靡が女から始まる

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と云ふことに氣を付けねばならぬ。何せ女から始まるかと云ふに、女が家庭でして居る仕事、料理、裁縫、育兒等のことは、他人に容易に委すことの出來る仕事であるからである。男のやつて居る戰爭だの、政治だのは一寸他人に委せぬが、女の仕事は他人に委せ易い。其上に女は情慾の受動的の働きを專門とするに陷り易き傾を持て居る。カウ云ふ次第から、何時も男子より先きに、女子の寄生的生活が始まり、女からして元氣が萎靡するのである。女が元氣がなくなり、弱々しくなれば、自然弱い小供が生れる、之れ女子の弱くなりし次ぎには男子も弱くなる所以である。であるから極言すれば、弱い母よりは、淫賣婦の方が不道德でも、弱い小供を生ぬ丈けに、罪が寧ろ輕い方であるとも云へる。一つの種族、一つの階級の衰微の原因は他にもあるかも知れぬが、母が寄生的になれば、生るゝ子供が悉く弱く、遂に其の民族なり、階級なり、全體を衰微せしむるは、確かな事實である。

吾々現代の歐羅巴婦人は、過去の歷史に於て他の種族の婦人が、屢々立つた立場に、又今立て居るのである。而して吾々今日の狀態は彼等よりもモット大なる影響を、人類全般に對して及ぼさんとするものである。

第二章の大略は右の如くで、第三章に入りて女史の論は益々其の光彩を放て居る。第三章の大意は次號で紹介します。

〰〰〰〰〰〰

みち子

手の上と云はずふたりはなきにけり、戶の面に雨が一しきりふる

あはれ雨我子ねむれりじめ〳〵と谷中の土にしみこむや雨

み足近う我身なげふし泣きにける、何を捧げむ男の君に

まさしくも我この君のみ胸にぞ、我巣ありげり地獄もありぬ

父の慈悲、母の慈悲にて我をとめ、蒸しころされむ頻死のをとめ

鬚そりて男が頰をなづる時ちゝと虫鳴く初秋の朝

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

赤ン坊展覽會

米國教育學博士　西山悊次

私が一昨年此の帝國小學校を創設した時には、生徒が僅か三名でしたが、今日では十五名、幼稚園の方も今日は生徒が四十名になつて居る。私が自から好んで小學教師となり、私費を投じて小學校を立てたのは、今の日本の小學教育は間違て居る、私が一つ理想的にやつて見せて、聊か日本の小學校を改革する刺激にならうと考へてである。例へば今日の日本の小學校では教師が生徒に對し惡官吏の人民に對する様な態度がある。私は此の態度を改めたいと思ふ。教師には充分生徒に對し友人と云ふ心持があつて、生徒を小さき紳士、淑女として遇せねばならぬと思ふ。又休み時間には教師は教員室へ這入り込んで新聞を見たり、雜談したり、乃至は茶を飲んだりして生徒を運動場に捨てあるが、私は之れは惡いと思ふ。私の學校では生徒の登校時間から退出時間までを教育努力時間と稱し、其の間は新聞を見ず、茶を飲まず、又雜談せずて、休み時間にも生徒と共に運動場へ出て、運動場で生徒と共に遊びながらそろ〳〵道徳的教育をなして居るのです、運動場では兒童の天性が最も能く現はれる、であるからコヽで道徳教育をするのが最も大切であると考へる。

私は大略右の様な考で、此の學校を經營して居るものだが、今回赤ン坊展覽會を發起するに至つたのは、先日紐育タイムス紙上で過日紐育で開かれた赤ン坊展覽會の記事を讀みてゞす。此の記事を讀んだ時に、私は、コンナ企てをなして、自分の學校の生徒の弟や妹に、母親と共に學校へ來て貰へば、ソレが一には學校と家庭の連絡の一助となり、二には育兒上に貢獻する所があらうと考へたので、早速發起したのです。切角の企てだから、學校に關係なき人々の中にも贊成者があるかも知れぬと思ふて、發表して見た所が、意外にも申込者多く開會の前日までに申込百餘名に達し、尚ほ當日申込なしに續々來場するものがあつた。

米國では四年ばかり前から赤ン坊展覽會をやつて居る、始は左程人の注意を惹かなんだが、今では大分盛んで、醫者の熱心な研究により、完全に近い兒童發育標準表と云ふものが出來て居る。日本にはまだソレがないが、兎も角も醫者が診査して、其の父母達に診査の所感を物語り、同時に教育家も所感を述ぶれば、大きに育兒上の參考にもなるだらうと考へる。

記者申す、右は西山博士を訪ふて聞き得た談話の大要であるが、ニコニコ雜誌社でも十月十二日に、芝の紅葉館で小供大會を開くサウです。コサ云ふ會合の續々開會せられんことは、私共も熱心に希望致します。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

蓑蟲

向うの三河屋の二階で抱えの半玉が清元を浚つてゐる――

昨日よりけふは思ひのます鏡くもるとならば花の空、上野の鐘かあさくさか、無常な――

「中々いゝ聲だねえ、けれど癖がある、玉ちやんさう思はない？」

「さうねえ姉さんにさういはれゝば……」

「つまりのどにまかせてふり過ぎるのさ横丁の延初さんが一寸あんな風だね、まあいへば無常をつぐるのところを、む――じやうをといふ風にむの字をひどくあげてのばすの、あれは臭い、私の師匠はあゝいふ處を大變にやかましくいつたよ、テンチ――ンチンと彈いたら一つ間を置いて無常をと詰めて落す樣にしてつぐるをゆつたりとかたるの、どうもその方が澁く聞えるわ、尤私の習つた師匠は地が富元だつたといふ話しだからそのせいかも知れない。」

「富元は此頃すたつたのですつてね」

「すつかり、すたつたわね、いゝものだけれど、富元といへば富本さんからちつともかゝつて來ないけれど彼の子しくじつたのぢやないかしら」

「そんな事ないでせう、鈴木の旦那が又お留守なんぢやないんですか」

「いゝえ四五日前に小奴さんが梅香亭さんでお目にかゝつたといふもの」

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「あらさうですか」
「一寸きいちやん、菊香さん、何してゐるの、そんな暑いところに、こゝはいゝ風が入るよ、葭戸をもうすこし明けると――さう――いゝ風でせう？　ねえ富本さんからちつともかゝらないけれど旦那は如何なすつたんだらうね」
「さうですねえ……」
「さうですねえぢやないわ、呑氣な人よホヽヽ、何かしくじつたんぢやないかえ？」
「いゝえ姉さん」
「ぢやどうしたんだらう、こつちにはいらつしやるんだけれど」
「私なにもしくじつた覺えはないんですけれどね」
「お前さんあんまりさつぱりしてゐるからだよ手紙か電話でもあげて見たらどう？」
「さうですねえ」
「ねえ玉ちやんあの方はあれで中々氣のつく方だね、菊ちやんあゝいふ旦那をよくして置いてもちつとも損はないよ、隨分あるお客のなかでも爲になる人といつちやそれは少ないものなんだから」
「本當に姉さんさうねえ」と玉助はしんから云つた。
「それに川びらきの御約束も最早ねがつて置かなくつちや、未だないんでせう？」
「はあ」
「どうなすつたか聞いてあげるといゝ」
「はあ」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「何だか氣のりがしない樣だねえ、どうせ藝者になつたからには、少しはその氣にならなくつちや、御寮人さまぢやないんだから、折角自分についたものは自分がはなさない樣に骨を折らなければ長つゞきはしないのよ、誰が番をしてくれるものかね、ねえ玉ちやんさうぢやないか、そしていつまで花の盛りでは居ないんだから、爲になる人を見つけてサッサッと自分のみじんまいをしなければたちまちに秋の扇さ、それからはもう追つきはしない、新松川の千代香さんなんて利口な子さ、どうだらう兜町の篠崎さんにスッカリ取り入つちまつて借金はきれいに返して自前にはなる此ごろぢやわけと抱えを置いてさあのやかましやのお母さんをおかいこぐるみにして置くんだからね、としはといへば二十二だとさ一つ位かくしてゐるとしても菊香さんと五つとは違やしない髮と姿がいゝから一寸目につくけれど道具は揃つてゐやしない、ねえ玉ちやん」

「少し口が大きい樣ですね」

「鼻だつて少しふしがある樣で面白くないわきいちやんなんて容色からへいば十段も上なんだもの、少し商賣氣さへ出せばお客の方から轉がつて來るのに、ぢれつたい事さ」

「電話をかけてごらんなさいよきいちやん」

「えゝかけて見ませう、小間彦の電話、なほつたでせうか」

「さつきお琴さんに逢つたらなほつたつて云つてたわ、私も葛引買ひに行から一緒にゆきませうよ」

玉助は菊香と外へ出た新道を出て廣小路の方へ行く。

「何だかふさいでるわね、どうかしたの？」

「私どうしやうかと思つてゐるの、今朝手紙が來てね」

「何だつていふの？」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「急に貳拾圓ばかり要るといふの」
「何時までに？」
「それが急なの、郷里へ一度行つて來なければならなくなつたといふんでせう、それにね、あの鈴木さんの事が耳に入つたらしいので……私本當にこまるわ」
「耳に入つたつて――それでなんていふの？」
「もし本當ならば了見があるつていふの、私だつてね玉助姉さん、何も好きこのんで……私本當にそんなこんなを思ふと、たとへ他人の台所を働いてもこんな家業なんかになるのぢやなかつたとつくづく悲しくなつてね、うちのお兼どんを見るとうらやましくなるのよ、今はさう思ふけれど彼の時はまつたく……彼の人は病院へ入るし、お父さんはあの通りな飲みぬけなんだしせめてお母さんでも生きて居れば相談のしやうもあつたでせうけれどね、姉さんには義理に義理がつもつて來るし、いやと云はれないはめになつて、けれど私、これほど辛いものだとは本當に思はなかつたんですものね」
「可愛さうにねえ」
「いつそ、鈴木さんがこのまゝになつてくれゝばかへつていゝと思つてゐたんですけれど、姉さんはあゝいふし、私もう死たくなつちまつたわ」
「そんな氣のせまい事でどうするの？　年期といつたつて、三年ぢやありませんか、夢の樣に經つてしまふ、自前になるまでの辛抱だわ」
「私には千代香さんの樣な腕はないし、それに姉さんは私のやうなものに看板なんてわけて呉れやしない、キット」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「一生懸命にかせげばいゝわ」
「かせぐつたつて私、いやな人の機嫌なんて……」
「そこが苦海だわ」
「いやだ〳〵お金の方はどうもしやうがないわね」
「旦那に頼んでみるんだわね」
「出して呉れるかしら、又姉さんに知れたらめんだうね、それがもし出來ても出所が知れたら彼の人は受けはしない」
「さうむづかしくては困るね、出所なんて一々いはなくつてもいゝぢやないか」
「だつて堀つてきかれたら……」
「都合をしたんだからマアようござんすよくらゐに云つとけばいゝわ」
「そんな事ぢや治まらないのよ彼の人は」
「ずゐぶんめんだうだわね、素人とちがふのだから少しはがまんしてもらはなければ、とてもたちゆかないわ」
「だから私もうつく〳〵……尼にでもなつて淸く送りたい、でなければいつそ一ト思ひに大川端から……」
「つるかめ〳〵、氣は廣くもたなきや駄目だわ『さりとはせまき御了見死んで花實が咲くかいな』と髮ゆひのお總さんがとうに云つてゐるぢやないか、それはさうと返事は出したの？」
「えゝ今朝直に」
「なんて？」
「あのね今夜だいゝちの河岸まで十時に來て下さいつて、而してお互によく相談して、私が惡ければどうされても

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

けつして異論はないし、あなたのいふ通りにするからつて……」
「お金の方は？」
「それは何ともいつてやらないの、出來る見こみだつてないんだから、すべて打明けてあやまつて……私が惡いのだから、どうなつたつて仕方ない、もう覺悟してゐるわ」
「あら彦さんとこ通りこすわ――今日はお暑うございます、電話一寸貸して下さいな、さいちやん早くかけておいで、お琴さんあの巾の葛引來て？　ぢや二ゝわ頂だいな」
「それから細ものがいろ〳〵まゐつて居ますよ」
「あゝさう、見せて頂だいな」
「玉助姉さん、何んてかけませう？」
「仕様がない人だよ、兎に角一度來ていたゞかなければ姉さんが治まらないわ、けれど姉さんが治まらないからなんてかけちや駄目よ」
菊香は上つて電話室へ入つた、玉助は紅や靑や白や水色や銀などの細い根がけの入つた箱を引よせて好きなのを選り出してゐた。
「あらまさか――」

＊　＊　＊　＊　＊　＊

モシ〳〵どなた？　ハアさうですよ、ハイ居ります、あなたは？　恩田さん？　どちらの恩田さんです、さういへばわかるのですつて？　どういふ御用なんでせう？　イ、エ出られないのではありませんけれど……私ですか？　私は鈴木の妻ですよ、ハアさうですか、それでは只今よびますから――

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「あなた電話です」

「誰から？」

「恩田といへばわかるさうです……」

「あゝ恩田、さう」

ハイ〳〵さう、私が鈴木、ハイハイさうです、さうですよ、よく聞えるから早く用を、エ？　あゝ、いゝや、いつ？　さあ、明日か明後日あたりなら都合出來るかも知れないが………よくはわからない、ナニ？　よく聞えない、馬鹿な事を云つてゐる、そんな事はない、アーアーよろしい、よろしいよ、さよなら、チリ、ン。

其の日午後家を出た主人は夕飯にかへらなかつた。妻の室には夕暮から女客があつて親しさうに語つてゐた。

「隨分づう〳〵しいものぢやありませんか」

「それであなた默つていらつしやるの？」

「だからどうかしなければならないからあなたに來ていたゞいたのですわ」

「一體いくつくらゐの女？」

「十九とか廿とかいふのですけれどあゝいふものはふけて見えますわ、どつかに寫眞がありましたからあとで見ませう」

「そんなわかいの？　本當に憎らしい事、圓滿な家庭に風波を起してそれが何で面白いんでせう、そんなものゝ終焉はろくな事はないんですわね、本當に赦し難い罪ねえ……」

* * * * * *

隣家で急に蓄音器がフランスの國歌をやり出した。

あぐり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ラヂウムの話

ドクトル　渡邊鼎

今日醫界に大貢献をなしつゝあるラヂウムは、千八百九十八年、佛國の理學博士キウーリー夫人の發見にかゝり夫人は博士論文に此の發見に關する文を提出したのです。夫人の夫も理科學博士です。

鑛物には螢の様に光を發するものがありますが從來それは晝間太陽の光を吸收しておいて夜間ソレを發散するのであらうと思つて居たがソレに疑を懐き、どうも直接光を發する鑛物がある様に思つて試驗した結果、發見されたのがラヂウムです。

ボヘミヤのヨアヒムスタル鑛山から出るペヘブレンヂと云ふ鑛物の中にある、ウラニウムと云ふ元素が變化してラヂウムとなるのです。これまでは元素と云ふものは一定不變のものだと思つて居たのであるが、このウラニウム元素の轉化してラヂウムとなるといふことが發見されて以來、元素も轉化するものだと云ふことが分つて來た、ウラニウムが轉化してラヂヴムになり而してラヂームは二六時中止むことなく光線と瓦斯とを發散するものである。

さて其の次に其光線と瓦斯とを醫療上に使ふ様になつたが、それはベツクルと云ふ人がラヂウムを試驗する際にガラスの小管に入つたラヂウムをポツケトに入れて居た、すると十四日目に皮膚にヤケドの様な水泡が出來た、どうしてこんなものが出來たかとダン〳〵考へて見た所がラヂウムを入れておいた處に出來たのであつた、そこで此の光線は人體の組織に變化を起さすものだと氣付き、いろ〳〵試驗して見た結果いよ〳〵醫療に使へば非常に效力があると云ふことを確かめたのである。

ラヂウムの光線は種々なる化學的の力を有し硝子に入れて置くと硝子が紫色や黄色に變り、ダイヤモンドでも直ぐ眞僞が分る。又酸素と水素との瓦斯を混じて此光線を通すと直ぐ水になるし、空氣でも藥でも此の光線で直ぐ分解する力を持つて居る。眼に見ては螢の如き弱い光だが、非常に強い光で、銅貨二三枚を通し、人體をも通す、エツキス光線より遙かに強い。そして此元素は絶えず光線と瓦斯とを發射して居るにも係はらず、二千年たつてやう〳〵半減するのです。

併し元素は消滅しなくても代價が非常に高いので金利丈が大變です、最初一ミリグラムは八圓位であつたものが、效能が大變ある事が明かになつて來たのと原料が取れないので目下は三百圓以上に騰貴して尚且つ是を手に容る事が困難になつて居る有様です、十ミリはホンの些々であるが三千圓である。何しろ一年間はオーストリヤ政府で三グラムしか取れないのであるが、その三分の二を自國に留めておいて三分の一丈けしか各國に出さぬのだから中々之を買入る事が出來なくなつた、そして三分の二を自國に保存するのは畢竟世界の病人を吸收する計畫である。つまりこのラヂウム療法は自然療法である。將來はどうしても自然療法によらなければならぬ。動植物でも日向のものはよく發育する様なもので、ラヂウム光線をあてると非常によく發達する畢竟ラヂウムの效能と云

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ふのは身體の組織を變化せしむる作用のものであるから、癌の治療はこれによるより外道がない。其の他凡ての病氣の慢性的のものによく効を奏すると云ふも皆ラヂウムの光線が病的組織を變化して健康なる組織に改造する力に因るものに過ぎないのである今日迄のラヂウムにて治療した病氣で著しく効を奏したものは大約左の諸症であつた。

僂麻質斯、神經痛、神經衰弱、トラホーム、慢性中耳炎、肥厚性鼻炎、慢性喉頭加答兒、聲音嘶嗄、濕性肋膜炎、慢性胃腸加答兒、慢性子宮内膜炎子宮癌、月經痛其他癌腫肉腫及び慢性の皮膚病は殆んど凡ての皮膚病に效を爲すものである。之を要するにラヂウムは凡ての慢性病にて今日迄あらゆる治療を施して効の顯れざる難病に對して著しき奏効あると云ふてよろしいのでる。

流行

此頃はまぜ織と申しまして、縦が絹で横に毛を織り込んだ一見お召のやうな物か大分出來て參りまして、それが大そう好評を博して居るさうで御座います。

お召は矢張り優勢で、色は大分茶がつた物か喜ばれて參つて居りますが、茶と云ふ色は地味な色故にお若向きとしては、お納戸がかつた紺か茄子色等が今年の流行色と先づ思つて居ればいゝさうで御座います。

裾まわしは相變らず羽二重で、澁いとか意氣とか云ふ風を喜ばれる方は表の縞と同傾向を帶びた色のものをお用ひになり、山の手向きとしては正反對にパツとした物が喜ばれます。帶も色の上から申しますと裾まわしと同樣に一方は飽く迄も地味、一方は飽く迄も派手と申すやうに別れて居ります。

唐織、しづか織が流行いたして居りまして、柄は縞入の大模樣、申さば縞と模樣が合體致したやうな物で御座いまして、白茶又は金茶色がゝつて居りまして、もし帛紗帶として用ひらるゝ時には色は反對のものを合せてすることになつて居ります。

友染ちりめんとしては、古代の更紗ちりめんの大模樣で色は古代茶又はうら葉色のやうなもの、即ちうす色のものが、着物の色と調和した物として、一般の嗜好に適することで御座いませう(以上白木屋にて)

久しい間優勢なる地位を保つて居りました有職風の濃厚な物に飽が來て、寫生風を模樣化させし物、直線で模樣を現はしたやうな物が非常に喜はれて來て居ります、

色は紫を含んだ花色の強い色、あい紺、若紫、あい紫、少しく地味な所であい藤色又は八千代色等の處で御座いませう、尙ほもつと地味向きとしては鼠を中心として茶色がかつた等の處で御座いませう。

縞物も格子縞かたて縞になり此春頃は棒縞のやうな強い物が大分御用になりましたが、秋からは唐棧風の色氣を應用した物が流行して來るで御座いませう。

殊に近來縞柄が共に細くて餘り複雜しない單純な物ばかりで色は少しく大體に茶を帶びて居ります。

帶は糸錦、唐織等でさつぱりとした模樣

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の軽いもので色彩を強く織り出したもの等か多く用ひられて居ります。

尙ほ訪問服としてお召の無地に供色で縞柄が織り出されそれが殆んど縫模様のやうに見へて精巧を極めて居ります、花柳社會等ではお座敷着として着て居るのを昨年あたりからちら〳〵見うけるやうで御座います。

尙ほ又千歳染めと申しまして、縞柄で御座いますのを殆んど有染ぞめと同じやうな方法で染めあげ、それが一見して織り縞のやうに見へるこの種の物も大分一部では用ひられて居ります

これにぬひ紋をなして訪問服と致して居ります

友染も秋の物としては、紅葉、菊、桐等を主として、矢張りそれを直線で現はすと申すやうになつて居ります。地は紫又は桔梗色等で御座います（以上三越にて）。

小供のお祝着を洋服にして見るのも一寸面白く又經濟でもあらうかと記者の老婆心からして神田の岡田洋服店に就いて聞きえたことをざつと申述べませう。

七五三のお祝着として女の子ならば靴から靴下外套下着シャツ迄を合算して卅圓もあれば充分に出來上ります、男の子ならば卅五圓で出來上る豫算で御座います、或ひはそれ以下でも出來ませう。

一度つくつて置きますと、三年は充分に着られます、子供の服としては、和服よりも洋服の方が非常に經濟で且つ便利で御座いませう。

用ひらるゝ地質は、アマゾンクロース、ハピツトクロース、ミロトハ等の類で、色は男女の區別によつて様々御座います。

尙ほ表を羅紗にして裏に友染メリンスをつけ被布と外套とを兼用せるやうな、有難いものも同店主の考案で見本が出來て居りました。價格は大體五圓內外の所。

外套で時々袂を出したり、又それを不必要の時には疊み込んで置くことの出來得るものこれも價格は前同斷。（神田岡田洋服店）

婦人服を古くから專門のやうにして居る、本郷の大河內洋服店主に就いて少しく聞き得たことを御紹介申上ませう、

此頃の流行は大體に小柄に仕立てあげて身體にぴつたりとあつて形をつけたやうな風が非常に喜ばれ居りますヒダを少しく取つて細つそりとした形に仕立あげるのが流行するのださうでして、

色は無地の茶、こげ茶、白茶、鼠等で、派手な處では赤は動きのない所で次には草色のこひ物等の處で御座います、子供の洋服も一體に不經濟との批評も御座いますが、或る點迄は仕立直して幅を入れ又たけをつぎたして、目に立つ處を飾りをかくして古い物を新らしくして着ると云ふやうな、到底日本服では見られないやうな便法もあるにはあるので御座います故、決して不經濟とは思はないとの店主の意見でした。

記者も小供に洋服を着せる事には大賛成です、さうしてかうした自信のある言葉を、其道の人達ちから聞き覺えますと、尙ほ一層に其必要を感じました。

七五三のお祝着として試みに洋服を一組、坊つちやんなりお孃ちやんなりに着せておあげになつて御覧なるのも面白いで御座いませう。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

東西南北

▲高野重三氏より　先日御話有之候雜誌賣擴めの事不取敢二十部丈け毎月引受可申候、就ては御手數恐れ入り候へ共、貴社より直接右二十部を市内の基督教主義の女學校及び婦人團體へ御送り下され度願上候。云々（九月六日）

記者申す、本社の趣意に御賛成の方々が、此の際、十部づゝ若しくば廿部づつ、各方面へ雜誌配布の費用を負擔されて、本誌發展の上に御助力を與へ下さることを希望します。

▲木陰の女より　私は夫の不品行を苦にせる女の一人ですが、貴誌を拜讀して大に發明する所がありました。心から感謝致します。私共の知れる限りの夫人方は、大抵同じ苦しみある人々です、して見ると世には私共と同じ思ひの夫人が頗ぶる多いことを想像します。どうか御自重して大にやつて下さい（九月七日）

▲吉川たみ子氏より　神田表神保町三番地へ引き移り、英佛學院を創設しました（八月廿五日）△長女が信州諏訪で病死仕りました（九月十日）

吉川家の御不幸に深く同情します（記者）

▲尾崎恒子氏より　先頃參上いろ〳〵御馳走樣有難く謝上候、私事其後腦をわずらゐ此頃漸く快方に向ひ候ため、其の仕上げのため、當地へ轉地靜養致し居候、いづれ四五日頃には歸京仕るべき心算に候まゝ、萬々お目もじの上にて皆樣へ宜しく……、只今雜誌を頂だきました有難うございます……よせては返す間もあらず、よせによせ來る荒浪は、現時の社會を思せて、おもしろく成申候。呵々（二百十日夕暮材木座進藤亭内）

▲中島女史より　かねて御尊名は御著書並に雜誌にて拜見致し一度御目もじ致し度切望致し居る者に候、私は唯今、如何ともなし難き盲目の運命にとらはれ、前途のおぐらきに進むべきみちを知らず、空しく苦しみ居候處、遙かなる東都に一大光明を見いで候。それは御尊名にて候、一面識もなき私が突然と御迷惑なること御願申上何んと申上樣もなく候へども上京致し全部打ち明け申のぶべく候間、今後の方針につき御示導御願申上候云々（八月廿二日）

▲尾竹一枝氏より　この頃は仕事の御樣子どんなでございますか、私はこの秋からこそはとうんと力を入れてはおりますが、やつぱり日頃の惰性にぐん〳〵引張られております。近い内御伺ひしたいと存じます。我儘な私の旅のお話でもおきかせしたいと存じますので。（九月十三日）

▲高橋里子氏より　しと〳〵と降る秋雨は一層靜かに寂しき氣を催し申候　其後益々御淸々しく渡らせ給ふ御事小口夫人より毎々うけ給はり乍陰御同慶申上候、何卒此上とも益々御上進遊ばされ或意味に於て成功の綱を握らるゝ事深く御期待は素よりに候へども其あらゆる手段の千分の一としては手前共も其一人として御覺へ下され度候先日も主人

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に細々と相談致し候處自己を埋沒せざる必要はお互の家庭にないでないかと申候故私も出來る限りの御便宜には自分の如何なる働きをも辭し申間敷と存じ候尚近き內に御目通りの機會も候べく先は御尋ねかた〲僞りなき告白を申上候折角御健康を祈り居申候早々

新刊紹介

▲凋落（曉烏敏氏著）雜誌『精神界』の主筆たる著者が、其の妻の病沒前後に書いた感想を編輯發行したもので、著者の涙の記念である。私は此の書を讀んで泣かされました。左に其の二節を紹介しておきます。

△看護人の仕事は、濕布をして、氷囊で冷したり、或は食餌をたいてやつたり、便器を運ぶなどのことである。お藥をやつたり、便器をかへたりする時に、自分はなさけないやうな氣分に襲はるゝこともあれば、又一種の誇を感ずることもある、天下を動かす筆をとろとうぬぼれてをるこの手に、不淨をかへてやるのかなと思ふとなさけないやうに思ひ天下の志を持つてをる自分が一妻女の爲めに全身を縛られてしまはねばならぬのかななどとも思うて、又そのうちに、いや自分は今この尤も近い、尤も憐れむべき一女の爲に止むを得ずにしても、一身を捧げて看護させて貰へるは、大に天下の爲に働いてをることになるのである云々

△段々と夜ふけになつた、病人はつらさうだがまだなか〱まゐりさうでもない、皆がお腹がすいて來た、家の母が、昨日見舞にと、東京の加藤末吉さんが下さつた、カステラを切つて茶を持つて來られた。私も頂いた、皆も頂いた。三河の母も頂かれた、今まで泣いてゐた者が皆カステラをたべてお茶をのんだこの時、私は、ふと、殘酷ぢやなと思うた。今死んで行く、苦んでをる者を見物してカステラをたべるでもあるまい。同情も愛も、腹がへつてはなくなるのぢやなと、自分の不實なのに驚いた。實の母上もやはりたべてゐられる『お母さん、あんたもカステラをあがりましたな。死にかゝつてをる者を見物してお菓子にお茶が頂かれるとは、あきれはてますな』といふと『さうですな』と母も驚かれた。

妻を先だてた方、夫を先だてた方々に、殊に此の書の一讀を希望します（七十錢、東京巣鴨町二の三十五、無我山房）

▲『我子の惡德』『我子の美德』（大村仁太郎氏編述）『我子の惡德』は、親の缺點が子に傳はる次第を、小說風にして目に見へる樣に書いたもので、之れを讀んで私は大に反省する所があつた。次に『我子の美德』は、之れも同じく小說風にして、小供を教育するに熱心な親の力で、立派な小供が出來て行く次第を目に見へる樣に書いたもので、此の書よりしても學ぶ所が大なるものであつた。私は此の兩書の一讀を人の子の親たる人々におすゝめする。（五十錢づつ、東京神田表神保町二、同文館發行）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

俳句

夏山茂子選

一等

百舌啼くや馬肥ゆる日の雲もなし　天野露子

二等

秋晴れて野菊あかるき徑かな　石山治子

三等

靜なる秋の心や鏡研ぐ　澤村園子

白蓮に對する寫經の机かな　澤村園子
柳散る橋や廊の遠明り　同
櫓の音に鳥立つ澤や今朝の秋　小倉文子
碩德の迎へ駕行く花野かな　同
舟人の焚火に雁を聽く夜かな　森野たけ子
木場の木の片乾きして蜻蛉飛ぶ　同
竹亭に詩を祭る灯や竹の春　前田津優子
波閑寂雁啼いて岬灯の滅す　同
草庵の蟲に埋れし小窓かな　吉波艮子
病む母にヤマメ釣けり草紅葉　松丸稻子
種黍を軒に吊すや萩の宿　片桐くみ子
燭剪れば初雁渡る新酒かな　吉原富子
柿の村新酒の村や百舌の聲　長田雪枝子
蟲咽ぶ千草原中庵かな　稻葉茂子
若竹の拔出て高き月夜かな　福田ゆきよし

城南吟行　選者

竹伐つて霧の小藪を出にけり

短歌

小口みち子選

二等　東京麹町一番町九　正親町ゆき子

うつくしく優しきさがをもてる子よ、コスモスに似てさみしき人よ。

三等　府下南多摩郡鶴川村　近藤なほ子

知らざれば安し女のはかなさは、知りそめし子のあはれなるかな。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

選外

正親町　ゆみ子

妹よおひらん草の花咲きぬ、古き別れの胸いたむなり。
見かへれば青き岬の燈臺の、夕暮こめてほのかにも見ゆ。
紅玉のごとくあえかにつゝましく、君に十五の春來りけり。

近藤　なほ子

まきらはすすべなくけふも泣きにけり、人戀するは悲しきものぞ。
亡き母をしのびて我の泣くがごと女はうしと泣きたまふ友。

日暮　靜子

人戀ふる身の衰へに秋の灯のしむなり今は君よいづくに。
秋しぐさ悲しうそよぐ夕まぐれさら〳〵月の匂ひ來しかな。
ほとゝぎすゆく然もわかでなく夜かも、旅の愁に胸、胸いたむ。
いつか來む鎌倉の空の夕あかり、思ひしづかに別れをぞ云ふ。

藤井　よね

ふる里の野のさく花をなつかしむ、つまむとすれば涙こぼるゝ。
しら〳〵と月の上りぬいざ行かむ、山の手に行き君をおもはむ。
けふも又明日のごとくわれひとり、この川岸に立ち君を思はむ。

東京　散花

ふく風に亂るゝ髮のうるさくて仰げば紅葉はら〳〵と散る。
悲しかり君と分れてひとり來し森の木になくかな〳〵の聲。
ふとさめて夜半に月見る心地しぬ別れし君に逢ふ間一とゝき。

夕村　暮人

夜となれば指おりかぞへ君とあふ、その日〳〵を待つ子のさみしさ。
さるすべりほのかに咲きぬこの森に、君とあはましこのふる里に。

竹内　二美子

とけがたき謎あづかりて歸り來ぬ、夏陽はあかくから〳〵と照る。
はしやぎたる男の群をわるびれず、横ぎらんとするあやまれる友。
ことごとを心しづめて味はひぬ、その文がらを山ときづきて。
つかれはてしまなこはなくば月の暈、暗示の如く吾が上にあり。

長田　雪枝

鳥よとりよ翼はかなし夕暮の風吹く空をなきてかけれる。
我心逢ふ人毎に語りても、見たくおもへり秋の夕暮。

松丸　裕子

月照るや赤土山に鹿なきて、谿間の紅葉おり〳〵に散る。
コスモスのひれりくねりて這ふ姿、何か求むる放縱の生。
鳴くならば時鳥より蟬の悲哀を織くきざむ聲よし。

夢野　和香子

夕されば悲しき夢の花かとも河原つゞきに月見草咲く。
夕やみにふと見出でたる月見草、その色すでにうら淋しけれ。
處女なりき星の主なりきうらぎりの君がみ前にそら涙しぬ。

選者

破るれば討死するとさだまれる、いくさに我れも出づべき物か。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

投稿募集（毎月十日〆切）

婦人問題に關する報道、論議、其の外感想文、詩的散文の投書を歡迎す續々御投稿をお願ひします。

■和歌（一人五首以內）　小口みち子選

■俳句（一人五句以內）　夏山茂子選

賞　△和歌、俳句一等五十錢、二等三十錢、三等本誌二冊

新眞婦人定價表（毎月一回一日發行）

一冊	（郵税五厘）	拾錢
半年分	（郵税共前金）	六拾錢
一年分	（郵税共前金）	壹圓拾錢

御注意　●注文は總て前金の事前金盡くれば必ず『盡』の一字を朱にて帶封に認む直に送金なき時は發送を停止す●郵券代用は壹錢又は五厘切手にて一割增

◎新眞婦人廣告料　特別面三十圓、一等廿五圓、二等二十圓、普通面十五圓、木版を要するものは別に實費を申受くべし

大正二年九月廿八日印刷納本
大正二年十月一日發行

本郷區駒込林町二〇〇番地
發行兼編輯人及印刷人　西川文子

本所區番場町四番地
印刷所　凸版印刷株式會社分工場

東京市本郷區駒込林町二百番地
新眞婦人社
郵便振替貯金口座東京二四五五六

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

森田草平氏著

西歐の名作に始めて比肩し得べき

小説

煤煙

西歐の名作に始めて比肩し得べき小説『煤煙』第四終卷成る。此作が如何なる動機の下に如何なる犧牲を拂ひて生れたるかは、今再び言ふに忍びず。亦、此作が我邦人文史並びに文藝史上如何なる意義を有するかは、世人の記憶に新たなる處、今更に贅せず。只此作が純藝術品として如何に傑出せるかを一言して以て江湖に見へんとす。市場在來の作品と同一視せらるゝ處なくんば甚だ幸也

第四終卷成る

正價金七拾五錢郵稅八錢

第一卷 正價金七拾錢 郵送料八錢 五版

第二卷 正價金七拾錢 郵送料八錢 參版

第三卷 正價金七拾五錢 郵送料八錢 再版

東京日本橋下槇町

如山堂書店

振替東京六四二五

笹川臨風先生著

畫趣と詩味

四六判四百頁上製天金箱入
コロタイプ寫眞版五葉挿入

金壹圓貳拾錢
內地送料八錢

古今の趣味を說き、東西の趣味を論じ詩を品し、畫を評す、通人論もあれば美人談もあり、俳を說き、文を論ず、著者が豐溢なる材料と精緻にして流暢の筆路は全卷の興味に更に錦上花を添へて光彩は鮮かなり！

東京市本郷區元町貳丁目
振替口座東京壹五七八〇番

發行所 中央書院

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

季節向き化粧品陳列

御婚禮御化粧法

右御化粧法の義は當館々主多年の經驗により御素顔の美を損ぜぬやう又お召物との配合光りの接觸等入念なる注意と熟練せる技術とによりて御用命に應じ申すべく陸續御申込み相なりたく伏して希望いたし候

尚ほ季節向き御化粧品種々取り揃へ御注文に相叶ひ候やう陳列致しあり候外個人的にして一つの美術とも申すべき化粧法に關し當館多年の經驗により御相談の御相手たるべき事を確信致し居り候

東京市京橋區
竹川町一二

理容館

電話新橋一五一九
振替口座東京一四一〇〇

御化粧法の御相談相手

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

常備せよ　ホシ小兒專門藥

人の親たる者何人も此廣告を熟讀せよ

■賣藥改良の魁は星製藥株式會社なり、ホシのクスリは能く効く、ホシのクスリは安心して賣ることが出來る、クスリはホシに限るとの公評を博せり

■小兒專門藥の必要なるヿは政府も民間も其必要を感せし處今般當社は率先左記六種の小兒專門藥を發賣す

ホシ小兒下痢止　**ホシ小兒下劑**　**ホシ小兒胃腸藥**

ホシ小兒祛痰藥　**ホシ小兒風藥**　**ホシ小兒虫藥**

美鑵入各定價十錢、六種一組箱入六十錢

説明書、病原療法、藥用法其他注意事項を記したる簡明の小兒醫書を添附せり

■政府の報告を見よ、小兒は一番病氣にかゝり易い、又死亡率も一番多い、是迄完全なる小兒專門藥のなきは何人も遺憾とする所なり、當社の此擧世人の賞賛を受くる偶然にあらず、世の親達よ明日と云はず本日直に之を求めて不時の用意に供せよ、子を有する友人親戚に此の藥の發賣を知らしめ、ホシ小兒藥に依り子供の健全を計れ

▲各特約店及び有名なる東京の藥店にあり

東京麹町區有樂町三丁目
（改築中假事務所）

星製藥株式會社

電話新橋二二三三番、四九七番　振替東京二〇五二二番

■當會社は岩下清周、片岡直温、松方幸次郎、荒井泰治、岩原謙三、山本條太郎、岩井重太郎、馬越恭平、小池國三、藤山雷太、岸敬二郎、野田卯太郎、岡本貞烋、桂光風君等日本第一流の實業家に依りて組織せらるゝ大會社にして此他三十四方の改良賣藥及び星化粧石鹼、星浮石鹼、星歯磨を發賣す、當社の信威と責任ある製劑とは世既に定評ありいづれも安神して御愛用を希ふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

花柳病豫防液
ゼニール

専賣特許

「ゼニール」は花柳病の感染を豫防する未曾有の特効を有し之を裝置する安全注入器は携帶に便小形堅牢なる特許品にして秘密使用に好適す。花柳病の滔々恐ろべき害毒を知る諸士の忘る可らざるは是ゼニール。説明書往復はがきで申込あれば進呈す

定價

特製（器械藥液）	一組	二圓
甲種（器械藥液）	一組	壹圓五十錢
乙種（器械藥液）	一組	七拾五錢
藥液ゼニールのみ	一瓶	廿五錢
送料	各	八錢

發賣元 精錡水本舗 岸田吟香

東京銀座二 電京六一五番
振替東京四七八七番

花柳病の恐る可き事は今更言ふまでもなき事なれど之にかゝらぬ人は殆ど皆無なるは隠れなき現代の状態にあらざるかされば轉ばぬ前の杖なり苟も豫防の方法あらば出來得る限りの方法を盡さゝれば悔ゆとも及ばざるべし本品の如きは實に轉ばぬ前の杖なり世の紳士青年諸君決して僅の金を惜みて忌むべき病にかゝり玉ふな殊に旅行でもなさるときは必ずかばんの中に一組の用意を乞ふ之を買求る手數を面倒がり又は「きまりわるがる」樣の事なく弊店若くば最寄取次店へドシ／＼御注文の程歡迎致します

肉體色白新劑

本劑は近時佛國パリス貴紳淑女間に最新流行の發明劑にして生來色黒き男女にても平素之を用ゆれば本濟の主成分たる皮膚漂白性作用により漸次肉體**白色**となり肌を滑にし皺を伸しあれ及吹出物を治し**艶美**の容貌となる卓効を有す世上種々雜多の色白藥を用ひて奏効なき人は速に本劑特製分貳劑を試よ偉大なる奇効完全に顯る價並製壹劑壹圓廿錢特別製壹劑貳圓貳拾錢

色白飲藥

英國輸入の全身清血劑にして飲んで體内の惡血毒血惡液を體外に排泄し血液を清淨にし完全に肉色を**白色艶美**ならしむる奇効顯著藥なり價壹劑貳圓九拾錢參劑七圓九拾錢五劑拾貳圓五拾錢色白新劑と内外双方併用せば偉大の奏効迅速に顯る着金即刻送藥す

腋臭(わきが)根治劑

本劑は腋臭症に對し最近の學理と實驗とにより研究發見せられたる**斯病唯一**の理想的卓効新藥にて本劑の作用により其病原汗腺を根底より變質せしむるを以て如何なる難症腋臭も完全に治癒す故に他藥にて全治せざる患者は早く試み病原を去り**苦惱を脫**せよ難症重症は特別製を用ゆれば完全著効を奏す藥價輕症用壹圓八拾錢重症用貳圓八拾錢慢性症用五圓八拾錢頑固症用特別製分拾圓八拾錢着金小包密送す

最新發見奇藥 陰萎病 特効新藥

本劑(藥名トニチン)は最近發見に係る陰萎病**唯一**の特効新劑にして其主治。適應症を擧れば種々の原因より來る**陰萎病**精神性陰萎。貧血性陰萎。衰弱性陰萎。根氣衰弱。神經衰弱症。早漏。萎縮。元氣衰弱。腎虛冷症等に卓越絶倫なる奇効あり荷も精力を旺盛にし生殖機能強健ならしめ人生の快樂を保全せんと欲する人は早く試よ的確偉大なる特効顯著なり藥價試用分壹劑貳圓輕症用五劑九圓五拾錢重症用八劑拾四圓五拾錢慢性症用拾參劑貳拾參圓也着金即刻小包密送す

月やく下し通經劑

本劑は胃腸を害せず子宮を痛めず月經とまりを迅速に**通經**す長き滯り及び血塊には特製分を用ひよ極安全に快通**流經**す且つ月經不順より起る子宮病血の道を治癒し惡血古血を一掃す患者は早く試み卓絶偉大なる**特効**を知られよ近時無効類似偽藥多し御注意を乞ふ價は壹劑七拾錢貳劑壹圓廿錢參劑壹圓七拾錢特別製分貳圓廿錢頑固症用特製分四圓廿錢郵券代用貳割增し

婦人病の福音

本劑は最新の學理と多年の實驗とにより發見せられたる婦人病藥唯一の靈劑なるを以て頑固なる月經閉止及血塊抔と稱へ永年經水なきを快通流下するは勿論月經不調に基因して續發する逆上頭痛眩暈腰或は子宮に痛ある人腹子宮部の痙攣等に用ひ偉大なる卓効顯著なり早く試よ

毛生新藥(けはへしんやく)

(奇効顯著藥)

本劑(藥名ヘアーグロース)は多年研究實驗の結果發見したる**毛髮發生藥**なり即ち男女共禿頭病の人各種の病氣にて脫毛する人頭髮及はゑぎわの薄き人陰部の毛なき人まゆげ口ひげの薄き人其他總て毛のあるべき所に毛なき人用ゆれば毛髮蒼々と**發生**する**特効**あり本劑は世にありふれたる種々雜多の毛はへ藥とは其効大に異なるに付幸に玉瓦混同視することなく速に試み偉大なる奇効を知られよ價小瓶壹圓廿錢中瓶二圓廿錢大瓶五圓廿錢特別製分拾圓廿錢着金即刻送藥す郵券代用必ず二割增しの事

やせる藥

壹劑參圓廿錢貳劑六圓二十錢特別製九圓拾錢

本劑(藥名ヨードチリン錠)は學理實驗に徵したる唯一の**瘦身劑**にて血ぶとり。酒ぶとり。あぶらぶとり。顏赤くほてり。のぼせ症。卒中症等總て肥滿質多血質脂肪過多質の人に用ゆれば無害にして著しく體量を減じ脂肪を適度に脫し**美容健康**を保ち程よくやせる特効藥なり故に彼の見苦しくふとりたる諸君は速に本劑を用ひ其偉大なる卓効を知られよ

以上七藥專賣

東京市神田區五軒町十九番地

日新館藥房

電話下谷五百四十六番

振替東京一九二四六番

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

醫學士提宗卿卓生先効證明實用新案特許良劑

不思議膏

諸君の家庭には**一日**も**不思議膏**を缺きたまふべからず**思**はぬ**時**に**思**はぬ**重寶**となるべし

「フシギ膏」は實にこれ何の病にも「フシギ効」也一度用ゐた人は必ずその功能におどろく

ながれずまくれず體裁よく何度でも用ゐられてどこでも痛む處へはればすぐにきく

効能

●れうまち ●骨の痛 ●かたのこり ●歯のいたみ ●うちみ ●神經痛 ●胃の痛 ●せんき ●寸白 ●痔 ●そこまめ ●すはりだこ ●ひようそう ●しやく ●ようてう ●やけど ●くつずれ ●づつう ●乳のこり ●のぼせ ●ろいれき ●耳の痛み ●其他いたむ處一切

定價

二枚入金五錢
四枚入金十錢
十二枚箱入金三十錢

本舖 東京市日本橋區若松町十七番地 **具足堂** 電話浪花四八六〇 振替東京一二三五

○**賣捌當市各藥店** 及全國各藥店

百菓の粹
家庭の珍
贈答の魁
交遊の媒
旅行の伴

改良紅梅燒

特製 白梅燒
上品 忍燒
別製 紅燒

本舖
古武良
上野池之端仲町

月やく

が二三ヶ月も滯り又は血塊など稱へ、永年經水なき人や、月經不順にて顔色が蒼白くなつたり、頬などが赤くなつて、始終頭痛、逆上、眩暈がするとかにて、御困りの方は三錢切手封入照會あれ、身體に何の障りなく流下する神藥ひみつ丸を御知らせ致します。

◉東京京橋區金六町三番地 笹山うめの

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

産婆看護婦派出
生徒養成

東京市芝區三田四國町二番地五號
電話芝八百六十四番

東京衛生園産婆看護婦部

部長 産婆看護婦 山下まつ子

府下荏原郡大崎町大字桐ケ谷三百五十九番地
産婆部大崎支局

東京市京橋區南鍋町壹丁目四番地

ラヂウム專門療院

電話新橋參〇壹六番

院長 ドクトル從五位 渡邊鼎

腦病精神病專門

東京巣鴨町四丁目巣鴨
電車終點先二丁

巣鴨腦病院

（長電話番町三〇九八）

院長 醫學博士 石川貞吉

入院隨意

腦病精神病專門

東京田端

東京腦病院

電話下谷三三〇三番

院長 後藤省吾
醫學士 黒澤良臣

●斯くしてリウマチスは全治せり

▽井筒屋藥の奇効……

●リウマチスの恐るべきは一般世人の知る所である決して不治症ではない、奇効卓絶の靈藥井筒屋藥を用ひたならば、決して不治を喞こつ必要はないのである、永年醫藥を用ひて効果無かつたものが我家傳の靈劑井筒屋藥を用ひて全癒した實例は枚擧に遑はない、世の所謂新藥さか新發見奇藥さか、稱するものに惑さるゝなく、速かに我が井筒屋藥、外用劑を試用して一刻も早く其痛苦を去られよ

藥價
五日分 五十五錢
壹週分 七十五錢
貳週分 一圓四十錢
（送料四錢[illegible]）

東京淺草仲見世天勇横町
井筒屋油店
電話……下谷三一五一番
振替口座一九六五二番

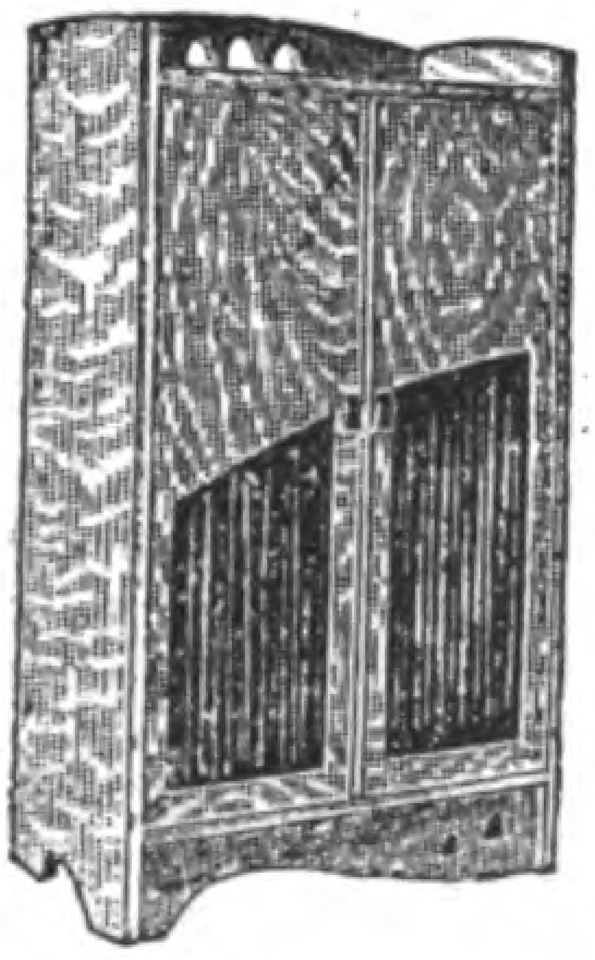
家庭の常備品

僅か筆一本でどんな
シミでもとれるのは
此のしみぬきに限る
是非一瓶は備へられたし

東京瓦斯株式會社

各營業所にて販賣す

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



御婦人向文房具

文房具にも亦御婦人向あり　伊東屋の階上には御婦人向文房具が澤山陳列有之候　御高覧お待受申上候

御婦人向文房具のうちに楢材に白ラックを施し優雅清洒を極めたる机と本箱と御置臺などあり殊に御高覧お待受申上候

机	高一尺貳寸	間口貳尺四寸	奥行一尺三寸	金五圓也
本箱	高二尺六寸	間口一尺五寸	奥行九寸	金九圓五十錢
本置臺	高一尺三寸	間口一尺四寸	奥行八寸	金三圓五十錢

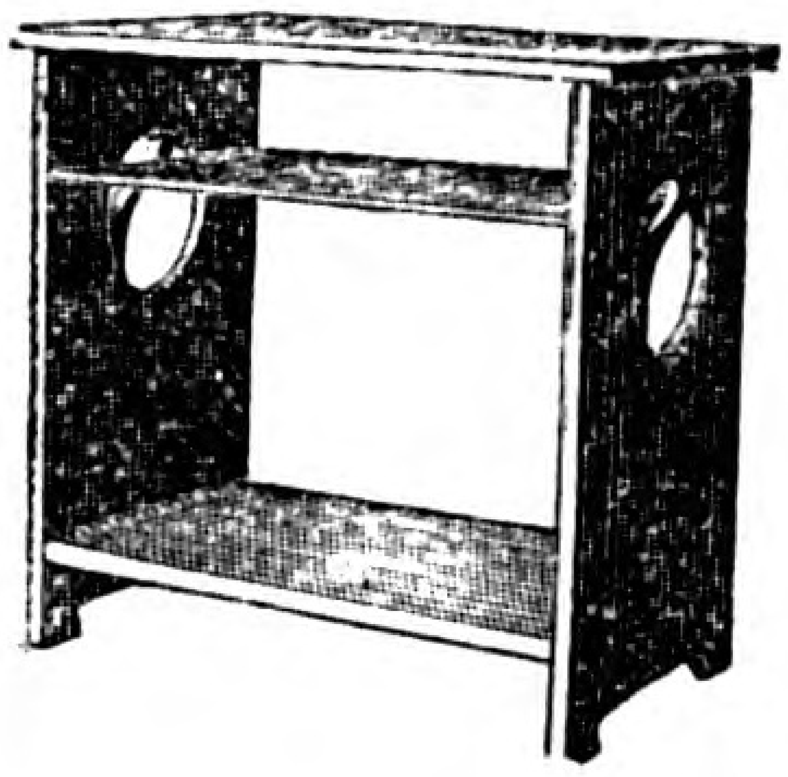
荷造費　机と本箱八十錢　本置臺三十錢

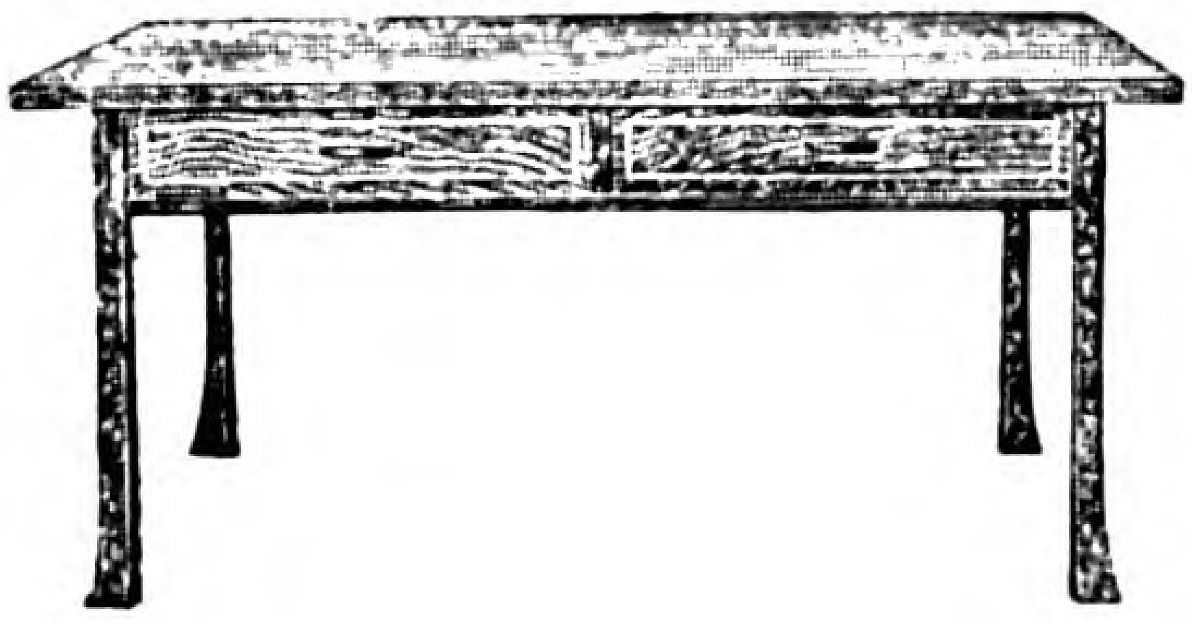
東京銀座

伊東屋

電話新橋　一一三二九　一七九六

振替口座　五一一一





十月一日より

秋季大賣出し

●新製品陳列會

●新江戸裾模様陳列會

右二會共……賑々敷設備の上陳列品を豊富に用意仕候

●新柄洋服地一式取揃

●御徳用向き「家庭きれ」取揃

●寄切れ見切反物取揃

●餘興……喜劇……開演

東京日本橋

白木屋呉服店

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

大正二年四月二十六日第三種郵便物認可
大正二年九月二十八日印刷納本
大正二年十月一日發行（毎月一回一日發行）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

復刻版　新真婦人　全6巻
付録1・別冊1
1994年10月31日　発行
本体揃価格　120、000円

発行者　船橋　治
発行所　不二出版
東京都文京区向丘1-2-12
〒113 ☎03(3812)4433
印刷所　三進社
製本所　青木製本所
中性紙使用
乱丁・落丁はお取り替えいたします。
Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

GEISEL LIBRARY
UNIVERSITY OF CALIFORNIA, SAN DIEGO
LA JOLLA, CALIFORNIA

UNIVERSITY OF CALIFORNIA, SAN DIEGO
3 1822 02333 1051

v. 1

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

UNIVERSITY OF CALIFORNIA, SAN DIEGO
3 1822 02333 1051
Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA